



明治大学博物館 年報 二〇一三年度

明治大学博物館



2013年度



明治大学博物館

明治大学博物館

年 報

2013年度



明治大学博物館

目 次

巻頭言	博物館長 風間信隆（明治大学商学部教授）	5
I	展示活動	7
1	特別展（7）	
2	その他の展覧会（10）	
II	教育普及活動	13
1	講座（13）	
2	博物館実習（15）	
3	在学生対象事業（15）	
4	アウトリーチ活動（16）	
5	社会連携・大学間連携（16）	
6	ボランティア受入れ（17）	
7	情報提供（18）	
8	ミュージアムショップ（18）	
9	明治大学博物館友の会（19）	
III	研究活動・研究奨励基金	21
1	調査研究活動（21）	
2	学芸員の研究業績（22）	
3	刊行物（23）	
4	大久保忠和考古学振興基金（23）	
IV	収蔵資料	25
V	統計・資料	31
1	入館データ（31）	
2	組織・構成（34）	
3	予算・決算（36）	
4	施設概要・見取り図（38）	
5	規程（40）	
6	2014年度教育・研究に関する計画書（47）	
7	明治大学博物館のあゆみ（51）	

<巻頭言>

博物館長 風間 信隆

(明治大学商学部教授)

大学博物館の使命は何より最高学府としての高いレベルの調査・研究に基づいてこれを教育に活用するとともに、その成果を社会に発信することによって、社会における大学のレーゾンデートルを高めることにあると考えます。2004年、アカデミーコモンの地階に従来の商品博物館、刑事博物館、考古学博物館という3つの博物館を統合して新たなスタートを切った博物館もすでに10年が経過しました。この間、関係諸機関の多くの方々のご支援・ご尽力によって、毎年、年間7万人を超える入館者を迎えるまでになっており、明治大学の研究と教育の独自性を社会に発信する重要な窓口として大きな役割を果たしてまいりました。明治大学博物館が、全国の私立大学博物館の中でも特に高い評価を受けておりますのも、当館が収蔵する、30万点を越える資史料の豊富さだけではなく、明治大学が保持する研究資源と研究成果の豊富さに基づくものであり、これからも博物館は明治大学の研究・教育と社会へのリエゾン機能を果たしていきます。

さて、2013年度において当館の特筆すべき展示活動としては、10月19日から12月12日の会期で開催された特別展「天平の華 東大寺と国分寺」(明治大学日本古代学研究所との共催)を挙げることができます。明治大学は2010年に故前場幸治氏から、「前場コレクション」とも呼ばれております、国内屈指の、約1万点にのぼる瓦コレクションをご寄贈いただきました。当館は墨書土器や文字瓦の研究において先進的な実績を上げている明治大学日本古代学研究所(所長 吉村武彦文学部教授)のご支援を受けて、3年間にわたりコレクションの全容を明らかにするための整理作業を進めてきました。今回の特別展は、「前場コレクション」の中核の一つである国分寺の瓦に焦点を当ててその研究成果を社会に発信する機会と位置づけることができます。今回の展示は、当館所蔵コレクションだけではなく、関係諸機関のご協力により、全国各地から貴重な資料を借用し、東大寺と国分寺の造営という観点から、我が国の律令国家体制の下で花開いた「天平文化」の実像に迫ったものであり、我が国における古代史研究をリードし、これに新たなエネルギーを生み出す契機をなしたと高い評価をいただいております。

また韓国公州市と群馬県みどり市の文化交流事業の一環として韓国公州市にある石壮里博物館において開催された「日本旧石器の始まり『岩宿』」展(岩宿博物館との共催:7月15日~2014年2月2日)において、当館が所蔵する、日本で最初に発見された旧石器遺跡出土重要文化財を、発掘当時の記録類の実物とともに、海を越えて韓国で初めて公開することができました。開催期間中、8万名を越える韓国の方々に、旧石器時代の日本の状況をご見学頂きました。昨今、日本と韓国との間にはさまざまな障壁が生まれておりますが、こうした文化交流を通じて、最も近い国同士がその障壁を乗り越えて、強い絆・相互の信頼が生まれるものと確信しております。今後、韓国や中国、台湾等のアジア諸国との国際的交流事業の強化も明治大学の国際化の中で実現されねばならないし、そのカタリストとして当館が果たす役割も大きいと考えております。

さて、当博物館は旧延岡藩主内藤家伝来の5万点にも達する貴重な藩政史料（内藤家文書）を収蔵しております。その関係で、毎年、延岡市で公開講演会を開催し、また同市内の小・中学生および宮崎県の高校生を対象とした作文コンテストも3年間にわたって実施し、その優秀賞・入選者を明治大学に招待するなどの交流事業をおこなってまいりました。その最終年度に当たる、2013年度も8月2日に作文コンテストの授賞式を開催しました。この表彰式には保護者の方々にもご出席いただき、博物館だけではなく大学各機関をご案内し、この交流事業は地元の新聞各紙に紹介されました。また内藤家が延岡藩主となる以前に長らく入封していた磐城平領（福島県いわき市）の古文書も当館に寄託されることになりました。今後、この資料の整理・研究に止まらず、いわき市との交流事業も図っていくことが期待されております。今後は、延岡市・いわき市・明治大学の三者交流事業も検討していく必要があると考えております。

当館は2012年度から「どこでもいつでも見学できる」バーチャル博物館構想の実現を目指し、その第一歩として明治大学ユビキタス教育推進本部のご支援の下で特別展のデジタル・アーカイブ化を図ってまいりました。すでに2012年度の特別展「氷河時代のヒト・環境・文化」に続いて、2013年度特別展「天平の華 東大寺と国分寺」についても映像デジタルコンテンツを製作し、当館ホームページでストリーミング公開を致しました。今後、常設展示のコンテンツを含め、このアーカイブを充実させ、当博物館の社会発信力の強化を図っていく必要があると考えております。

明治大学博物館は、そのミッションを明確化し、その使命を果たすために博物館の諸活動を絶えず点検・見直し、改革を進めていくことが博物館という組織の効率性（efficiency）と効果性（effectiveness）の向上のために必要不可欠です。その際、博物館も、明治大学という全学的観点から、当館が果たす役割を見つめ直す、という全体最適化志向が不可欠です。そうした観点から大学の発展のために博物館はいかなる役割を果たすべきか、また果たしうるのかを引き続き検討していきます。そのためにも博物館内部の議論と検討だけではなく、学内の関係各位・諸機関との積極的な「対話」（dialogue）と「共有される価値の創造」（Creating Shared Value）が不可欠であると考えております。



I 展示活動

1 特別展

「天平の華 東大寺と国分寺」

(1) 実施形態

主 催 明治大学博物館 共 催 明治大学日本古代学研究所
 会 期 10月19日(土)～12月12日(木) 55日間(会期中無休)
 会 場 明治大学博物館特別展示室 入場料 ¥300 入場者数 5,144名
 企画構成 山路直充(市立市川考古博物館・博物館研究調査員)、忽那敬三(考古部門学芸員)、鈴木知子(博物館研究調査員)、森本尚子(同)

(2) 趣旨

明治大学博物館は、2010年に故前場幸治氏から約1万点にのぼる瓦をご寄贈いただいた。その内容は国内外の各地・各時代に及び、国内の瓦コレクションとしては屈指の規模として知られている。当館は、墨書土器や文字瓦の研究において先進的な実績を上げている明治大学日本古代学研究所の協力のもと、3年間にわたりコレクションの全容を明らかにするための整理作業を実施してきた。その成果をふまえた今回の展示では、コレクションの中核のひとつをなす国分寺の瓦に焦点を当てている。

東アジア世界では、漢字・儒教・律令制・仏教が大きな位置を占め、文明化の指針となったとも言われる。倭王権はその一員となるべく、6世紀から7世紀という時期にこれらを受け入れ、8世紀に至って律令国家を実現させた。それを示すのが前方後円墳の築造の停止、寺・宮都・地方官衙の造営である。なかでも、寺や宮殿・官衙の屋根を覆った瓦は、文明化を象徴する建築資材であった。8世紀には日本各地にさまざまな瓦葺きの建物が造営されるが、大きな契機となったのは8世紀半ばの東大寺と国分寺の造営と、それを取り巻く社会情勢であった。

東大寺と国分寺は、聖武天皇と光明皇后が仏教による国家の護持や人びとの救済を願って建立した。その造営にかかわる高度な技術と生産体制は、宮都のみならず各地の文明化の進展に大きく寄与した。東大寺と国分寺の造営は、宮都と各地を結んで天平文化を体現したと言え、それは「天平の華」と呼ぶにふさわしい事業であった。

今回の展示では各地の機関から貴重な資料を借用し、造営という観点から「天平の華」とも言える東大寺と国分寺の姿に迫った。

(3) 展示構成

I 東大寺と国分寺

約60か所にも及ぶ国分寺(国分僧寺・国分尼寺の総称)は、疫病と飢饉が神仏への祈りによって収まったことから、聖武天皇と光明皇后が中心となり国家の安寧を願って列島各地で建設が進められた寺である。741年(天平13)に建立が命じられ、釈迦仏を本尊とした。一方、東大寺は私財を投じて仏に尽くす人々に感銘を受けた聖武天皇が、春日山麓に存在した皇太子を偲ぶ寺を発展させ、742年に大和国金光明寺(国分僧寺)としたのが始まりである。国分寺のひとつでありながら、本尊は、仏の世界の中心に位置する盧舎那仏(千の釈迦仏となることが可能)であり、東大寺と国分寺の関係は律令国家の統治のあり方(天皇-国司)を反映するものでもあった。東大寺の象徴ともいえる巨大な大仏の造立が始まったのは、その3年後である。

II 護国の祈り・金光明経と七重塔

国分寺建立の命令では、僧寺と尼寺に安置する金光明経・最勝王経と妙法蓮華経(法華経)の写経が命じられ、経典名が僧寺と尼寺の正式名称となった。金光明経に説かれる四天王(仏法の守護神 東:持国天、南:増長天、西:広目天、北:多聞天)による護国と、法華経による滅罪(人の救済)が重視されたのである。僧寺にのみ建立された七重塔には、紫色の紙に金泥で書かれた特別な金光明経(紫紙金字金光明最勝王経)が安置され、751年(天平勝宝3)ごろ各国に下された。建立の命令では「造塔は兼ねて国華」と述べられている。七重塔は、変革期における国家の威信を示す一大モニュメントであった。

Ⅲ 国分寺の造営

国分寺の建設は思うように進まず、たびたび督促が命じられたが、766年(天平神護2)頃に建設がひと段落する。武蔵国分寺の漆紙文書、但馬国分寺・安芸国分寺の木簡は、各地の国分寺が整備された年代と具体的な活動の様子を示す貴重な資料である。国分寺の瓦には、中央政府の直接的な技術指導を示す平城宮の瓦と同じ文様の例や、下野国のように国分寺造営に伴って生産地や技術が集約され、その過程で中央の瓦製作の技術が伝わるのがわかる例がある。また、国分寺の具体的な構造や施設は、発掘調査や墨書土器等から次第に明らかになりつつある。また、大仏や国分寺の建設や運営には多額の費用がかかり、郡・郷単位で負担していた。瓦の郡・郷名は生産負担を示しており、木簡からは「米」等の具体的な品名と数量を知ることができる。

Ⅳ 国分寺創建と地域社会

国分寺の創建は、各地の社会に大きな影響を及ぼした。越前国坂井郡高申村の東大寺莊園絵図からは、東大寺の経済基盤として地方の莊園が重要な役割を担っていたことが窺える。また、千葉県西根遺跡・大塚前遺跡の墨書土器と瓦からは、地域の実力者である郡司が、国分寺建設をきっかけに見返りとして得た権利を使って大規模な土地開発を進めたことがわかる。また、茨城県南部では、国分寺の瓦が山寺や周辺各郡の寺でもみられることから、国分寺を核として修行場の整備や瓦の製作技術を伝えるネットワークが形成されており、地域における仏教の広がりを支えていたと考えられる。

Ⅴ 天平の華 その光と影

東大寺と国分寺の創建は律令国家が出現し、その機能が整う過程で行われた。その目的は、国を守り人びとを救うという理念の他に、国家のシンボルとなるモニュメントの建設にあり、多大なエネルギーを注いで造られた美しい堂塔が立ち並ぶさまは、まさに「華」であった。一方で、10世紀初頭に醍醐天皇へ提出された上申書には、「多大な歳出によって多くの大寺が造営された。建物は高く、仏は大きく、その技術は優れ、(中略)鬼神が造ったようで、人が造ったとは思われない」という浪費への批判があり、さらに8世紀半ばの橋草奈良麻呂の謀反の理由には、東大寺造営による人びとの辛苦が挙げられている。華々しい造営の影には、多くの人びとの負担と苦難があったのである。

(4) 展示資料概要

①資料数 160点(内借用資料108点、館蔵資料52点)

②出展協力機関(28か所)

石岡市教育委員会、市原市教育委員会、市原市埋蔵文化財調査センター、稲城市教育委員会、稲城市郷土資料室、かすみがうら市郷土資料館、上総国分尼寺展示館、公益財団法人千葉県教育振興財団大多喜作業所、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター、国分寺市教育委員会、国立歴史民俗博物館、鳥根県立古代出雲歴史博物館、市立市川考古博物館、但馬国府・国分寺館、宗教法人東大寺、千葉県教育委員会、千葉県立房総のむら、チームユメット、東大寺ミュージアム、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所、栃木県教育委員会、栃木県立しもつけ風土記の丘資料館、奈良県立橿原考古学研究所、奈良国立博物館、東広島市教育委員会、東広島市出土文化財管理センター、府中市郷土の森博物館、武蔵国分寺、武蔵国分寺跡資料館

(5) 特別展関連イベント

①開幕記念講演「東大寺と国分寺」

講師：栄原永遠男氏(東大寺総合文化センター・東大寺史研究所所長)

日時：10月18日(金)15:00～16:30

会場：グローバルフロント1階 グローバルホール 参加者：120名

②公開シンポジウム「東アジアからみた東大寺と国分寺」

「時代背景」吉村武彦氏(明治大学・明治大学日本古代学研究所所長)

「東大寺」吉川真司氏(京都大学)

「唐」向井佑介氏(京都府立大学)

「新羅」清水昭博氏(帝塚山大学)

「国分寺」山路直充氏(博物館研究調査員・市立市川考古博物館)

日時：11月4日(月祝)11:00～16:00

会場：グローバルフロント1階 グローバルホール 参加者：202名

③ギャラリートーク

解説：森本尚子（博物館研究調査員）

開催日時：会期中の隔週金曜日 13：00～13：30 10月25日、11月8日、11月22日、12月6日

会場：博物館特別展示室 参加者：延べ124名

（6）特別展映像デジタルコンテンツの作成

2013年度特別展「天平の華 東大寺と国分寺」の映像デジタルコンテンツ（約10分）を制作。2014年度に博物館ホームページにおいてストリーミング公開。制作・著作：ユビキタス教育推進事務室・明治大学 制作協力：アイフォスター



展示室入口



開幕式典（日高憲三理事長の挨拶）



開幕式典につづく内覧会



展示室内風景（上総国分寺七重塔再現 CG）



瓦レプリカのハンズオン展示



開幕記念講演会（講師：栄原永遠男氏）

2 その他の展覧会

(1) 主催・共同主催展覧会

①

新収蔵・収蔵資料展 2013		
会 期	3月23日～4月14日	23日間
入場者数	1,625名	
2012年度に博物館が新たに収集した資料および関連する収蔵資料を紹介。弥生時代の銅鐸文化の最終段階に位置付けられる近畿式の銅鐸、江戸時代の拷問・刑罰の実相を記した秘密書『刑罪大秘録』の流布本3種、拷問縄という特殊な捕縄術の免許状、2000年代に入ってからの新動向を反映した有田焼の新開発商品など。		



①『刑罪大秘録』の流布本

② ※明治大学学芸員養成課程と共催

オーソドックスな古文書展示		
会 期	5月25日～6月30日	37日間
入場者数	2,592名	
明治大学には、江戸時代を中心とする古文書が19万点収蔵されている。江戸時代には6万の村があり、日本全国どの地方に行っても古文書が残されており、その時代の庶民の暮らしや生活などがわかる。それらについて、基本的な支配関係・村政関係資料の解説とともに紹介した。		



②

③

譜代大名内藤家文書の素顔		
会 期	7月6日～8月9日	35日間
入場者数	2,880名	
明治大学が内藤家文書を受け入れてから50年の節目を記念した展示会。2011年度から行われている「内藤家文書研究の促進及び旧領延岡市との交流事業」の調査成果の発表を兼ね、幕府と内藤家の関係、特に軍事的な側面と、幕府から与えられた所領に関わる側面を展示。		



③

④ ※韓国石壮里博物館・岩宿博物館と共催

日本旧石器の始まり“岩宿”		
会 期	7月15日～2014年2月2日	
入場者数	89,002名	
韓国公州市と群馬県みどり市の文化交流事業の一環として開催された。日本で最初に発見された旧石器時代遺跡である岩宿遺跡出土重要文化財（当館蔵）をはじめ韓国で公開。出土品のほか、発掘当時の記録類の実物を展示。		

※韓国公州市石壮里博物館にて開催



④

⑤

有田焼—商品の伝統・進化・変容		
会 期	2014年3月15日～4月27日	44日間
入場者数	2,649名	
商品部門の教育研究プロジェクトによる成果報告展。我が国初の磁器産地であり、柿右衛門、鍋島、古伊万里といった伝統様式で知られる伊万里・有田焼について、伝統技法の継承と近代合理化との相克、ライフスタイルや消費性向の変化を反映した新たな商品開発・マーケティングのあり方などを紹介した。		



(1)-⑤

(2) その他

①明治大学理工学部建築学科 主催

建築家とは何か：堀口捨己・神代雄一郎展		
会 期	4月20日～5月19日	30日間
入場者数	2,767名	
本大学建築学科創立メンバーで、我が国の近代建築運動を牽引し、他の追随を許さない茶室と庭の研究を大成した堀口捨己(1895～1984)及びデザインサーヴェイをはじめ多彩な活動を基盤に現代建築を論じた神代雄一郎(1922～2000)の、国際的な視野で日本の環境と意匠を捉える、「建築家とは何か」という問いを再評価した。		



(2)-①

②日本SF作家クラブ・明治大学米沢嘉博記念図書館 主催

SFと未来像展		
会 期	9月1日～9月29日	29日間
入場者数	3,272名	
日本SF作家クラブの50周年を記念し、戦後、海外のSFの潮流を吸収し、様々な社会変化を背景にしつつ、独特な空想科学的作品群を小説・マンガ・アニメ・特撮などの分野で産出してきた日本のSFが描いてきた未来像に焦点を合わせ、その変遷と未来へのヴィジョンを、原画などにより展示した。		



(2)-②

③専修大学大学史資料課 中央大学大学史編纂課
日本大学大学史編纂課 明治大学史資料センター 主催

近代日本の幕開けと私立法律学校		
会 期	2014年1月24日～2月28日	36日間
入場者数	2,532名	
明治期の神田地区に私立法律学校として誕生し、100年を超える歴史を有する総合大学へ発展した4大学のアーカイブを利用し、明治期の私立法律学校の実像に迫りながら、当時の学生の下宿・通学・勤労の場にスポットをあて、民法・商法の施行をめぐる繰り広げられた法典論争を紹介した。		



(2)-③

(3) コレクション展

①商品部門

ア

テーマ	刀装具 意外な意匠 時田昌瑞ことわざコレクションより
期間	3月1日～4月30日 61日間
刀には本来の機能とは関係のない装飾があることに着目し、鐔・小柄・目貫にほどこされた模様に着目した。取り上げた画題は「猿猴捉月」「瓢箪鯨」「鼠の嫁入り」。	

イ

テーマ	甲州印伝細工
期間	5月2日～6月30日 60日間
鹿革に型紙で漆を施した甲州印伝（山梨県）について、ルーツに関する諸説、漆による装飾と文様の意味、デザインの変遷について紹介した。	

ウ

テーマ	長崎べっ甲細工 —限りある資源のなかで—
期間	7月3日～10月2日 84日間
べっ甲細工の原料はワシントン条約により輸入が禁止されている。この展示では、工芸原料の有限性と有効な利用について問題提起をおこなった。	

エ

テーマ	樺細工
期間	10月4日～12月25日 73日間
秋田県仙北市角館町の伝統的工芸品である樺細工について、その歴史と製造技法について紹介した。	

オ

テーマ	《伝統的デザインの再構成》陶磁器
期間	10月4日～12月25日 73日間
消費者のニーズの変化に対応しつつも、伝統的な色・形・図柄などを受け継いで製作されている陶磁器資料を展示した。	

※エ・オは同時開催

カ

テーマ	《意匠様々》 諺表現 —時田昌瑞ことわざコレクションより—
期間	2014年1月8日～3月7日 58日間
視覚化されたことわざ表現として、正月や干支にちなんだ最も人気の高い「一富士二鷹三茄子」「瓢箪から駒」について、古くから現代にいたる資料を展示。	

キ

テーマ	沖縄の伝統と工芸
期間	2014年3月19日～5月25日 68日間
館蔵の沖縄県の伝統的工芸品について漆器、陶磁器、染織品を紹介した。	

②考古部門

ア

テーマ	明大コレクション 25：坂本万七コレクション 美術写真からみる考古学
期間	3月1日～6月3日 95日間
写真家坂本万七が撮影した当館所蔵の考古資料の写真を、実物と共に対比して展示。	

イ

テーマ	明大コレクション 1：中国鏡
期間	7月17日～2014年1月10日 156日間
考古部門の代表的な収集資料のひとつである中国鏡42面の展示。	

ウ

テーマ	明大コレクション 26：中国古代の陶文化
期間	2014年2月1日～4月25日 84日間
新石器時代から漢代にかけての古代中国の土器を展示し、各時代における変遷とその特色を紹介。	

③刑事部門

テーマ	錦絵に見る鉄道開通
期間	2014年3月1日～4月12日 43日間
刑事部門所蔵の錦絵の内、明治5年（1872）の横浜～品川～新橋間の鉄道開通に関わるものを紹介。錦絵に記された運賃や「鉄道略則」など、鉄道開通時のエピソードを交えて展示した。	



③「錦絵に見る鉄道開通」展示風景

II 教育普及活動

1 講座

(1) リバティアカデミー博物館入門講座

①

古墳時代の副葬品と被葬者			
日 時	5月31日～6月28日 金曜日		
定 員	15:00～16:30〈全5回〉 定員30名		
講 師	忽那敬三（学芸員・考古部門担当）		
受講料	¥8,000	受講登録者数	40名
会 場	309C・博物館教室		
副葬品の種類や意味について学び、当時の社会と被葬者について考える。			
①祈りの道具・石製品			
②鍬と刀剣			
③武具と馬具			
④大きな鏡・小さな鏡			
⑤副葬品から被葬者をさぐる－武器・玉類の副葬			

②

弥生時代の稲作伝播をさぐる			
日 時	11月14日～12月12日 金曜日		
定 員	15:00～16:30〈全5回〉 定員30名		
講 師	忽那敬三（学芸員・考古部門担当）、遠藤英子（明治大学古代学研究所支援研究者）		
受講料	¥8,000	受講登録者数	21名
会 場	博物館教室		
当館が収蔵する代表的な遺跡の出土遺物から、弥生時代の農耕の実像を考える。			
①レプリカ法でさぐる土器に残された穀物痕跡（遠藤）			
②稲作の始まり（忽那）			
③木と石の道具（忽那）			
④住まいと水田（忽那）			
⑤関東以北の稲作を探る（忽那）			

③

伊万里・有田焼研究			
日 時	10月1日～11月12日 火曜日		
定 員	15:00～16:30〈全4回〉 定員20名		
講 師	外山 徹（学芸員・商品部門担当）		
受講料	¥6,000	受講登録者数	15名
会 場	博物館教室		

有田焼の伝統が現在の産地にどのように受け継がれ、また変容しつつあるのか、“商品開発”をキーワードにその歴史のエッセンスを辿った。

- ①陶磁史の大転換—北部九州諸窯の勃興
- ②伝統的デザインの確立
- ③近代的ブランドネームの誕生
- ④新世代有田焼の登場

④

先史時代のダイナミクスと気候変動			
日 時	10月16日～11月6日 水曜日		
定 員	15:00～16:30〈全4回〉 定員30名		
講 師	島田和高（学芸員・考古部門担当）		
受講料	¥6,000	受講登録者数	38名
会 場	309D ほか		
先史時代の画期と気候変動のかかわりについて解説。			
①過去10万年の気候変動			
②ヒトの進化と気候変動			
③最終氷期の人類適応と絶滅動物			
④農耕の開始と文明の勃興			



③有田焼 柿右衛門焼合資会社の製品

(2) リバティアカデミー公開講座

①明治大学博物館考古学ゼミナール ア

第52回 『狩りと漁の考古学』		
日時	5月31日～6月28日 金曜日	
定員	18:00～20:00〈全4回〉 定員100名	
講師	山田しょう (加速器分析研究所)、藤山龍造 (明治大学)、樋泉岳二 (早稲田大学非常勤講師)、黒沢浩 (南山大学)、魚津知克 (大手前大学史学研究所)	
受講料	¥5,500	受講者数 57名 (のべ285名)
近年の研究で明らかになってきた、日本列島に生きた人々を支えた狩りと漁の実像と変遷をさぐる。		
①石器から見た旧石器時代の狩り (山田)		
②旧石器時代、縄文時代の狩猟活動をいかに読み解くか (藤山)		
③貝・骨から見た縄文時代の狩りと漁 (樋泉)		
④弥生時代の狩猟と動物利用 (黒沢)		
⑤漁具・漁撈からみた古墳時代の海と王権 (魚津)		

イ

第53回 『大英博物館所蔵 ガウランド・コレクションの研究』		
日時	11月8日～12月13日 金曜日	
定員	18:00～20:00〈全5回〉 定員150名	
講師	菱田哲郎 (京都府立大学)、後藤和雄 (元朝日新聞編集委員)、富山直人 (神戸市教育委員会)、忽那敬三 (明治大学博物館)、一瀬和夫 (京都橘大学)	
受講料	¥5,500	受講者数 27名 (のべ135名)
日英共同調査の成果をもとに、大英博物館が所蔵するウィリアム・ガウランドの考古資料コレクションの全貌に迫る。		
①ガウランド・コレクションと須恵器研究 (菱田)		
②ガウランドが撮影した写真資料 (後藤)		
③ガウランドと黎明期の日本考古学者たち (富山)		
④ドキュメント資料からさぐるガウランドの調査と研究 (忽那)		
⑤ガウランドの古墳調査-鹿谷古墳群・見瀬丸山古墳・芝山古墳 (一瀬)		

②黒耀石研究センター公開講座

ヒト・道具・社会と気候変動		
日時	11月15日～12月13日 金曜日	
定員	15:00～16:30〈全4回〉 定員40名	
講師	吉田明弘 (明治大学 P.D 研究員) 島田和高 (コーディネーター・明治大学博物館) 小野昭 (明治大学黒耀石研究センター) 鈴木美保 (明治大学遺跡調査団) 小菅将夫 (岩宿博物館)	

受講料	¥12,500	受講登録者数	19名
更新世／完新世の気候変動と石器・骨器の観察・制作実験を紹介			
①花粉化石から見た過去1万年間の気候変動 (吉田)			
②先史時代人類と気候変動 (島田)			
③旧石器時代の骨器・木器からなにが分かるか (小野)			
④石を割る (1) -石器作りを読む- (鈴木)			
⑤石を割る (2) -石器作りの実際- (小菅)			



(2)-①-イ 第53回考古学ゼミナール



(2)-②「ヒト・道具・社会と気候変動」石器作りの実際



(3)-①伝統的工芸品の経営とマーケティング Vol.8

(3) 公開特別講義

①商学部・商学研究科連携

伝統的工芸品の経営とマーケティング Vol.8 備前焼の歴史・産地形成と最新動向 -伝統陶器産地における市場動向と商品開発の変容-		
日時	12月4日 水曜日 10:40～12:10	
講師	木村宏造(協同組合岡山県備前焼陶友会理事長)	
パネラー	高橋昭夫(商学部教授)・菊池一夫(商学部教授)・上原義子(商学部兼任講師)他	
進行	外山 徹(商品部門担当学芸員)	
参加費	無料	受講者数 319名
商学研究科「商品学特論B」、商学部「商業経営論B」「商品学B」「市場調査論B」の拡大版として実施。備前焼は製品のほとんどが手成形・薪窯焼成に拠るといふ伝統製法が色濃く残る産地である。専ら美術的付加価値の高い商品を市場に送り出し、全国的に伝統産地が活況を呈した高度成長期における産地の拡大から今日の経済停滞期における動向の変化まで、その推移についてお話をいただいた。		



調査研究(刑事部門)
内藤家近代史料の整理(p21)



調査研究(考古部門)
玉里舟塚古墳出土埴輪の3次元デジタル計測(p21)

2 博物館実習

(1) 館務実習

①商品部門

参加者	明治大学9名
実習内容	館内施設・設備見学、ワークシート作成実習、収蔵資料整理、特別展受付担当

②刑事部門

参加者	明治大学13名
実習内容	館内施設・設備見学、収蔵資料の整理、特別展受付担当

③考古部門

参加者	明治大学17名、帝京大学1名、東洋大学1名、専修大学1名
実習内容	収蔵資料整理、坂本万七写真研究所コレクション整理 特別展受付

(2) 見学実習

5月11日 創価大学学芸員課程 3名

3 在学生対象事業

①学部間共通総合講座

「博物館の現場を実見する」(後期開講)月曜5限

生涯学習社会にあって誰にも平等に保証された教育の機会である博物館をより有効に利用するため、博物館とはどのような場所であり、どのような活用の可能性があるのか、最先端の施設・設備の実見、収蔵資料の実物実見などを通して理解を深めることを目的とした。

	テーマ	担当者
①	近代博物館の成立	矢島國雄※
②	博物館の成り立ち(明治大学博物館の場合)	外山 徹
③	商品部門の展示と資料	外山 徹
④	考古部門の展示と資料	島田和高
⑤	刑事部門の展示と資料	日比佳代子
⑥	最先端の博物館施設と設備	忽那敬三
⑦	考古資料の取扱い	忽那敬三
⑧	古文書資料の取扱い	日比佳代子
⑨	博物館資料の調査・研究活動(黒耀石研究を事例に)	島田和高
⑩	展示会の開催まで(特別展・天平の華—東大寺と国分寺—)	忽那敬三
⑪	調査・研究と資料の公開(古文書の調査・研究と公開)	日比佳代子
⑫	生涯学習と友の会活動	外山 徹

⑬	博物館の教育プログラム	外山 徹
⑭	ふりかえりと意見交換	矢島國雄

受講登録者数 45 名

※文学部教授（学芸員養成課程）・博物館協議会委員長・本講座コーディネーター

②国際日本学部文化資料学 夏期集中講義

同学部が主要課題とする日本文化理解の一環として、その源流を過去にさかのぼって考察するための素材である文化財について、博物館が収蔵する資料の取り扱いを中心に学ぶことを目的とした。

	テーマ	担当
8月1日	考古資料1（旧石器）	島田和高
8月2日	考古資料2（埴輪）	忽那敬三
8月5日	歴史資料	日比佳代子
8月6日	民俗資料・金石文	外山 徹

受講登録者数 4 名

4 アウトリーチ活動

①出張授業「考古学ってなに？」

日時：6月6日 東京都多摩市立多摩第一小学校6年生
講師：忽那敬三・土谷あゆみ

受講者数：約 160 名

②出張授業「弥生ムラのタイムカプセル 登呂遺跡」

日時：5月14日 明治大学附属明治中学校2年生
講師：忽那敬三

受講者数：166 名

5 社会連携・大学間連携

(1) 地域連携

①長野県長和町

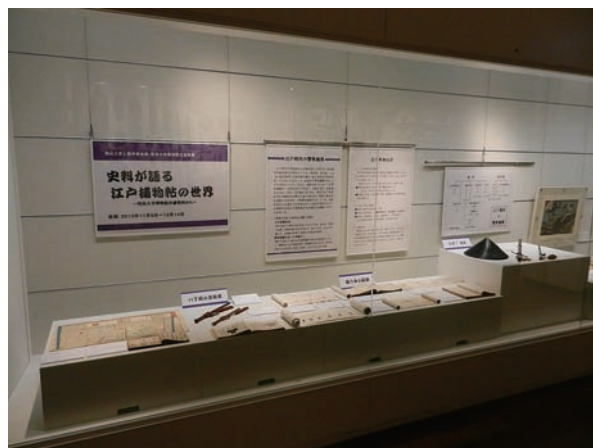
長和町（長野県小県郡）と本学は2000年に「黒曜石研究の推進に関する協定書」を締結し、これにもとづく事業に博物館も協力している。協定は、同町所在の鷹山遺跡群の発掘調査にもとづく先史遺跡と黒曜石原産地の公開・活用を目的とする。2000～2004年度には、私学助成による研究プロジェクトにもとづく現地に明治大学黒曜石研究センターが建設された。その後、センターは博物館分館を経て、2010年に本学の研究・知財戦略機構付属研究施設となり独自に調査研究活動を展開している。また、町民を対象とした「長和町民大学」、周辺市町村と連携した「信州黒曜石フォーラム」の開催などの支援も行っている。



5-(1)-②内藤家文書交流事業 公開講座



同 内藤家文書交流事業 作文コンテスト授賞式



5-(2)-①南山大学人類学博物館での捕者関連資料の展示



同 常設展示室での南山大学所蔵民族誌資料の展示

②宮崎県および宮崎県延岡市

ア 公開講演会

a 延岡市内藤記念館共催歴史講演会1

日 時 8月3日(土)

テーマ 明治維新と延岡士族

講 師 落合弘樹(明治大学文学部教授)

会 場 延岡市内藤記念館

受講者約70名

b 延岡市内藤記念館共催歴史講演会2

日 時 2014年2月22日(土)

テーマ 内藤家文書の素顔

講 師 日比佳代子(刑事部門学芸員)

会 場 延岡市内藤記念館

受講者約70名

イ「明治大学で宮崎の歴史を学ぼう作文コンテスト」

対象：延岡市在学小中生、宮崎県在学高校生

募集期間：4月15日～5月31日

応募者数：小学生57名、中学生64名、高校生18名、
計139名

授賞式・明治大学訪問：8月2日(金)

(8月1日～3日東京招待)

〈小学生の部〉

優秀賞 延岡市立旭小学校6年 下窪智裕
「延岡の能楽について」入 選 延岡市立東小学校4年 児崎 希
「牧水とわたし達のつながり」

〈中学生の部〉

優秀賞 延岡市立恒富中学校3年 浅井優香
「のぼり猿から伝わる思い」入 選 延岡市立岡富中学校2年 末廣いのり
「レンガ塀に見守られて」

〈高校生の部〉

優秀賞 宮崎県立飯野高等学校3年 出石英里子
「タノカンサア～地域に豊作をもたらす山の神～」入 選 宮崎県立高千穂高等学校3年 川崎 瑛
「高千穂古武道棒術」

ウ 博物館友の会共催講演会 ※授賞式の前に開催

日 時 8月2日(金)

テーマ 譜代大名内藤家文書の素顔

講 師 日比佳代子(刑事部門学芸員)

聴講者 約50名

エ その他

延岡市の地域史学習サークル「充真院を学ぶ会」との交流

③いわき市

ア 講演会

(ア) いわきヒューマンカレッジ(市民大学)

日 時 9月13日(金)

テーマ 困難な藩財政状況に役人達は如何に立ち向かったのか

講 師 森 朋久(博物館研究調査員)

会 場 いわき市生涯学習プラザ

受講者 168名

(イ) ことぶき文化学園歴史講演会

日 時 9月4日(水)

テーマ 延享4年内藤藩の転封～岩城平から延岡へ～

講 師 日比佳代子(刑事部門学芸員)

会 場 いわき市文化センター

受講者 105名

(2) 大学間連携

南山大学人類学博物館との交流事業

①交換展示の実施

会期 11月9日(土)～12月14日(土)

ア 史料が語る 江戸捕物帖の世界

会場：南山大学人類学博物館展示室

イ パプアニューギニアの物質文化～南山大学とアウフェンアンガー神父収集コレクション～

会場：明治大学博物館常設展示室

②一般社会人向け公開講座

ア 名古屋 12月7日(土) 14:00～15:30

テーマ 江戸時代の警察制度と治安取締

講 師 外山 徹(明治大学博物館学芸員)

参加者 14名

イ 東京 12月14日(土) 14:00～15:30

テーマ 南山大学人類学博物館のパプアニューギニア資料について

講 師 竹尾美里(南山大学人類学博物館学芸員)

参加者 14名

③在学生向け特別講義

ア 明治大 12月6日(金) 3・4限

テーマ 民族誌資料をめぐるいくつかのトピックス

講 師 黒沢 浩(南山大学人文学部教授)

受講生 8名

※学芸員養成課程「博物館実習」として実施

イ 南山大 12月13日(金) 2限

テーマ 祖先の暮らしを知る一文化財としての古文書

講 師 外山 徹

受講生 10名

※人文学部「人類文化学基礎演習IV」として実施

6 ボランティア受入れ

(1) 常設展解説ボランティア研修

研修日程及び内容

日程	研修種別	研修内容
5/22	博物館教育	展示解説の理念と博物館教育の特性

5/22	考古部門 1 考古部門 2	日本の旧石器時代 縄文時代の貝塚と生業
5/29	考古部門 3 考古部門 4	稲作の伝来と青銅器のマツリ 東国の古墳文化
6/5	商品部門 1 商品部門 2	漆器 器物に漆を塗るという意味は？ 染織品 「～織」「～緋」「～紬」 織物呼称の意味は？
6/19	商品部門 3 商品部門 4	陶磁器 一括りにできない種別と 原材料・工法 竹木工・金工・文具・和紙
6/26	刑事部門 1 刑事部門 2	歴史的な法の様々／高札 捕者具と江戸時代の警察制度
7/3	刑事部門 3 刑事部門 4	江戸時代の取り調べと裁判 仕置と見懲らし・さまざまな刑 事博物
2014 2/26	3 部門	フォローアップ研修 避難経路確認

(2) 特別展ボランティア

天平の華 東大寺と国分寺

会期 10月19日(土)～12月12日(木) 受付担当

参加者 友の会 70名 リバティアカデミー会員 1名

高校生 2名 計 73名

(3) 図書室ボランティア

① 学生ボランティア

新着図書 of 配架、書架整理、雑誌やリーフレット類の重複調査 等 2名

② 友の会会員

受付・入退出対応 26名

7 情報提供

(1) 印刷物

① 明治大学博物館広報紙「ミュージアム・アイズ」

61号、62号 A4判 16頁 各 5,000部

② 特別展・企画展印刷物

天平の華 東大寺と国分寺

ポスター 500枚 ちらし 30,000枚

入場券 3,000枚 招待券 5,000枚

図録 1,000部(第2版 500部)

③ 明治大学博物館年報 2012 年度 1,100部

④ その他

展覧会案内 2014 年 (A4三ツ折) 13,000部

(2) 報道機関等による取材

① 新聞・雑誌掲載

明治大学博物館 刑事部門紹介 千代田区消費者支援事業
応援冊子『CHIYOMO』 明治大学商学部小川智由ゼミ
ナール

明治大学博物館紹介 『東京散策乗物ガイド 2013-2014』
教材研究所

明治大学博物館紹介 『東京リビング』 1月18日号 サン
ケイリビング新聞社

明治大学博物館 刑事部門紹介 『東京マニアック博物館
おもしろ珍ミュージアム案内』 メイツ出版

明治大学博物館紹介 塾報『川』 神田川大曲塾

② テレビ放映

明治大学博物館 刑事部門紹介 「ドォーモ」九州朝日放
送

明治大学博物館紹介 「粋男流儀」 BSフジ

③ ラジオ放送・ウェブサイト・その他

明治大学博物館 刑事部門紹介 「マストラブジャパン」
マストラブ

明治大学博物館紹介 「レッツエンジョイ東京」 レッツエ
ンジョイ東京事務局

明治大学博物館紹介 「大学受験 パスナビ」 旺文社

明治大学博物館 刑事部門紹介 「マイナビニュース」 マ
イナビ

明治大学博物館 刑事部門紹介 「RocketNews24 英語版」
ソシオコーポレーション

明治大学博物館 刑事部門紹介 津田大介の「メディアの
現場」 有限会社ネオローク

8 ミュージアムショップ

(1) グッズ展示・頒布

① ミュージアムグッズの見本を展示

※頒布は受付窓口で対応

② 新商品の開発

ア Tシャツ ニュルンベルクの鉄の処女(刑事)

イ 手ぬぐい 特別展「天平の華 東大寺と国分寺」特製
(考古)

ウ ボールペン ニュルンベルクの鉄の処女(刑事)、土偶・
鏡・石器・土器(考古)

エ クリアファイル 出流原顔壺他考古資料

(2) 他館の情報

大学博物館および関連する博物館・美術館のリーフレ
ット・チラシを配布

(3) 来館者の声

来館者による展示見学に関するアンケート用紙を掲示

(4) 友の会ブース

博物館友の会の活動報告 お知らせの掲示

(5) 博物館からのお知らせ

博物館のイベント情報 報道機関の博物館・美術館関係の記事切り抜きの掲示

9 明治大学博物館友の会会員数 458名 ※2014年3月31日現在
総会 5月11日(土)**(1) 講演会****①総会・25周年記念講演会『再考・古墳出現』**

「大和・纏向(まきむく)王宮と箸中山(箸墓)古墳」

兵庫県立考古博物館館長 石野博信氏

「東国の出現期古墳と邪馬台国論」

明治大学名誉教授、当会顧問 大塚初重氏

対談 石野博信氏 大塚初重氏

司会：明治大学文学部教授 佐々木憲一氏

②古代史連続講演会第1回 6月15日(土)

「倭国の女王たち～卑弥呼と台与」

国立歴史民俗博物館教授 仁藤敦史氏

③講演会「江戸時代を探訪する PART 2」7月4日(木)

「江戸城跡の発掘と器」

千代田区文化財資料室学芸員・東京芸術大学教育研究助手 水本和美氏

「武家儀礼の器」

東京大学埋蔵文化財調査室准教授 堀内秀樹氏

④古代史連続講演会第2回 7月27日(土)

「はにわの世界への招待」

高崎市教育委員会 若狭 徹氏

⑤古代史連続講演会第3回 9月7日(土)

「木簡研究最前線」

奈良県立橿原考古学研究所主任研究員 鶴見泰寿氏

⑥日本考古学 2013 9月28日(土)

「史跡福井洞窟の発掘調査速報」

佐世保市教育委員会 柳田裕三氏

「信州広原遺跡の発掘からなにが見えるか？」

明治大学特任教授・黒耀石研究センター長

小野 昭氏

「千葉県金鈴塚古墳出土の馬具とその復元」

朝日新聞編集委員 宮代栄一氏

「岩手県野田村での復興発掘調査と普及活動」

群馬県教育委員会事務局文化財保護課指導主事

深澤敦仁氏

⑦古代史連続講演会第4回「中国正史から見える倭国」

10月10日(木)

「魏志倭人伝」に見える倭国の虚と実

早稲田大学文学学術院教授 渡邊義浩氏

⑧講演会「菊池 徳～国定忠治を男にした女侠～」

11月2日(土)

国立歴史民俗博物館名誉教授 高橋 敏氏

⑨特別講演会「古墳とヤマト王権」 1月25日(土)

大阪府立近つ飛鳥博物館館長・国立歴史民俗博物館名誉教授 白石太一郎氏

⑩会員発表会と講演会 2月22日(土)

第一部 会員発表

「『諸国入浴風景絵図』の世界へようこそ」

吉野忠夫会員

「一つの文書より江戸時代を覗き見る一乍恐奉願口上覚一氷室村関連文書の5」 小池佳代子会員

「古代集落遺跡から探る謎の須恵器『壺G』の用途」

蔵 由美会員

第二部 特別講演会

「北方系入植民と“縄文文化”の源流」

明治大学文学部専任講師 藤山龍造氏

(2) 見学会**①第13回会員案内による地元見学会「蕨市を訪ねる」**

6月2日(日)

案内 橋本秀夫会員

現地案内 蕨史跡探訪会会長 畠田直教氏

現地講師 河鍋暁斎記念美術館学芸員 加美山史子氏

埼玉大学名誉教授 在塚礼子氏

②見学会「江戸時代を探訪する PART 2」7月4日(木)

同行講師 千代田区文化財資料室学芸員・東京芸術大学教育研究助手 水本和美氏

東京大学埋蔵文化財調査室准教授

堀内秀樹氏

③発掘現場見学会「静岡県湖西市神座古墳群と豊橋市の遺跡」

・事前学習会 8月23日(金)

・見学会 8月27日(火)

同行講師 明治大学博物館学芸員 忽那敬三氏

現地講師 駒沢大学文学部准教授 寺前直人氏

豊橋市文化財センター学芸員 岩原 剛氏

④博物館特別展関連見学会「下野国分寺跡と周辺遺跡をめぐる」 11月10日(日)

同行講師 明治大学文学部兼任講師・市立市川考古博物館学芸員 山路直充氏

明治大学博物館学芸員 忽那敬三氏

現地講師 栃木市教育委員会課長補佐兼文化財
保護チームリーダー 木村 等氏
栃木県立しもつけ風土記の丘資料館長
藤田典夫氏
下野市教育委員会文化課 山口耕一氏
小山市教育委員会 秋山隆雄氏
特別参加 明治大学博物館研究調査員 森本尚子氏

東アジアの中の古代日本 研究会	28 名	
前方後円墳研究会	29 名	忽那学芸員
「倭国から大和」を学ぶ会	22 名	

※1 明治大学農学部兼任講師
※2 中央図書館事務長

⑤宿泊見学会「有田・伊万里焼の里と元寇船の眠る鷹島を訪ねる旅」

・事前学習会 11月2日(土)
・見学会 11月29日(金)～12月1日(日)

同行講師 明治大学博物館学芸員 外山 徹氏
現地講師 佐賀県立九州陶磁文化館学芸員
藤原友子氏
松浦市立鷹島歴史民俗資料館学芸員
山下寿子氏
佐賀県立名護屋城博物館学芸員
久野哲矢氏
唐津市末蘆館学芸員 浜口尚美氏

⑥第14回会員案内による地元見学会「川崎市を訪ねる一柵形山の地層観察『100万年の旅』と古民家を見る」12月21日(土)
案内 前林芳雄会員

(3) 広報活動

- ①会報発行 年4回(春・夏・秋・冬)
- ②行事案内 友の会ホームページでの情報提供随時
- ③友の会掲示板の活用、行事チラシの作成

(4) 博物館への協力

担当	活動日	活動者数
博物館図書室管理	開室日	31名
展示解説員	(火)(木)(金)	32名
天平の華 東大寺と 国分寺 受付業務	2013年10月～12 月	70名

(5) 学習サークル(活動原則として月1回)

分科会名	会員数	担当者・講師
古文書を読む会	26名	外山学芸員・ 森 朋久氏※1
平成内藤家文書研究会	16名	伊能秀明氏※2
工芸の会	20名	外山学芸員
旧石器・縄文文化研究会	21名	島田学芸員
弥生文化研究会	29名	忽那学芸員
古文書の基礎を学ぶ会	23名	日比学芸員

Ⅲ 研究活動・研究奨励基金

1 調査研究活動

(1) 商品部門

- ①「伝統的工芸品の経営とマーケティング」推進部会
4/18 7/4 9/27 11/28
- ②備前焼都内小売店調査
6/7 6/12 6/20 6/21
夢幻庵銀座店、備前焼ギャラリー青山 他
- ③備前焼産地調査
ア 協同組合岡山県備前焼陶友会（8月28・29日）
備前焼の産地形成の経緯及び近年の商品開発・販売の動向について
イ 一陽窯・木村宏造氏（10月30日）
公開特別講義（12/4）についての打ち合わせ
同映写資料作成のため写真撮影
ウ 協同組合岡山県備前焼陶友会（2014年3月24・25日）
市場開拓特別委員会の活動と新商品の開発について
委員長山本竜一氏インタビュー

(2) 刑事部門

- ①内藤家文書研究の促進
ア 資料所在調査
7月3日～7月5日 幕長戦争関係史料調査
大浪和弥（延岡市内藤記念館学芸員）
7月10日～12日 能楽関係史料調査
増田 豪（延岡市内藤記念館主任学芸員）
イ 調査成果発表展示「譜代大名内藤家文書の素顔」
7月6日～8月9日
- ②文学部教員・学生・院生参加の調査
ア 夏季古文書集中調査
2013年7月27日、29日～31日
内藤家文書近代史料の概要調査及び調書作成
参加者 文学部落合弘樹教授、野尻泰弘専任講師、他23名
イ 冬季古文書集中調査
2014年2月18日～20日
内藤家文書近代史料の調書作成
参加者 文学部落合弘樹教授、野尻泰弘専任講師、他6名

(3) 考古部門

- ①私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
2010年度に黒耀石研究センターは博物館から研究・知財戦略機構に移管され、同機構付属研究施設に位置付けられた。新たに設置されたセンター員に島田学芸員が委嘱さ

れ、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ヒトー資源環境系の歴史の変遷に基づく先史時代人類誌の構築」（研究期間：2011年度～2015年度、研究代表者：小野昭；研究・知財戦略機構特任教授）の研究分担者となっている。関連する研究活動は以下のとおり。

- ア 4月27日～5月12日：長野県長和町広原遺跡群における考古・古環境調査を実施
イ 6月25日～7月2日：アジア旧石器協会（Asian Palaeolithic Association）年次総会・国際シンポジウムにて口頭発表（中国寧夏銀川）
ウ Archaeometry Workshop 誌（Hungary National Museum）、ERAUL 誌（University of Liege）に論文投稿
エ 2013年9月23日～24日「隠岐島久見黒曜石原産地遺跡の踏査（同行：及川 穰、隅田祥光）
オ 長野県広原遺跡群第Ⅱ遺跡出土資料の整理作業および発掘調査概報の作成（通年）
カ 2014年3月15日～16日：大型研究2013年度公開研究集会にて口頭発表

②考古資料のインタラクティブコンテンツの制作

収蔵資料の360°インタラクティブ・デジタルコンテンツを考古資料について制作した（7個体）。今年度で合計21個体のコンテンツができた。これらはiOSアプリとしてコンパイルし、発信する。2015年度までコンテンツ数を順次増やし、2015年度中にiTunes Uより公開する予定である。

③ウイリアム・ガウランド写真資料（寄託資料）関連資料の調査

科学研究費基盤研究（B）「ゴーランドの古墳研究の総合的検証と古墳文化に対する国際的理解への活用」（研究期間：2012年4月～2016年3月 研究代表者：一瀬和夫 京都橋大学教授）に忽那学芸員が研究分担者として参加。8月14日～22日の日程で大英博物館収蔵のガウランドドキュメント資料の撮影及び内容の調査を実施。8月16日にロンドン国際交流基金主催講演会で講演。

④展示方法の視察及び館蔵資料関連遺物の調査

横浜市立歴史博物館、大妻女子大学博物館、造幣博物館、江戸東京博物館、ひたちなか市埋蔵文化財調査センター、高浜市やきものの里かわら美術館、大阪府立弥生文化博物館、市民ミュージアム浜北、高槻市立今城塚古代歴史館

⑤玉里舟塚古墳埴輪整理作業

茨城県教育委員会・明治大学文学部考古学専攻と共同で報告書刊行に向けた整理作業を実施。

⑥前場幸治瓦資料整理作業

リスト作成、資料実測・拓本・撮影、目録刊行

2 学芸員の研究業績

外山 徹

【著書】

『高尾山薬王院の歴史』（ふこく出版、2014年1月）

【論文等】

「内藤藩における藩祖家長と子息元長の霊神勧請関係資料について」（『明治大学博物館研究報告』19、2014年3月）

島田和高

【論文】

Shimada, K. (2013) From gathering to mining: prehistoric human activities around obsidian sources in central Japan. *Archeometriai Műhely* 2012/4: 229-245. Hungarian National Museum. (査読有り)

Shimada, K. (2014) Upper Palaeolithic obsidian use in central Japan: the origin of obsidian source exploitation. Yamada, M. and Ono, A (eds.) *Lithic raw material exploitation and circulation in prehistory, Études et Recherches Archéologiques de l'Université de Liège* 138: 175-199. Liège, Belgique. (査読無し)

【学会発表】

Shimada, K., Hashizume, J., Nakamura, Y., Aida, S., Yamada, M., and Ono, A. Prehistoric human activities and obsidian exploitation at the Hiroppara site group in Nagano Prefecture, central Japan. International symposium in commemoration of the 90th anniversary of the discovery of Shuidonggou (Session: the 6th annual meeting of Asian Palaeolithic Association), 27 June 2013, Yuinchuan Ningxia, China, Oral (Abstract: pp. 78-79)

【講習等】

島田和高「黒曜石をめぐるヒトと資源開発」講演会、2013年9月7日、史跡田名原旧石器学習館、講師
 島田和高「過去10万年の気候変動」明治大学博物館入門講座「先史時代のダイナミクスと気候変動」、2013年10月23日、明治大学アカデミーコモン、講師
 島田和高「ヒトの進化と気候変動」明治大学博物館入門講座「先史時代のダイナミクスと気候変動」、2013年10月30日、明治大学アカデミーコモン、講師
 島田和高「最終氷期の人類適応と絶滅動物」明治大学博物館入門講座「先史時代のダイナミクスと気候変動」、2013年11月6日、明治大学アカデミーコモン、講師
 島田和高「農耕の開始と文明の勃興」明治大学博物館入門講座「先史時代のダイナミクスと気候変動」、2013年11月13日、明治大学アカデミーコモン、講師
 島田和高「先史時代人類と気候変動」第4回明治大学黒

曜石研究センター公開講座「ヒト・道具・社会と気候変動」、2013年11月22日、明治大学アカデミーコモン、講師

島田和高「後期旧石器時代の板橋—ヒト・環境・石器—」板橋区文化財講座「板橋区の旧石器時代を学ぶ」、2014年1月11日、板橋区グリーンホール、講師

日比佳代子

【報告】

「明治大学博物館所蔵島田正郎教授寄贈フィルムについて」（文化財保護国際会議「龍門石窟と関野貞」報告、8月27日、法政大学）

忽那敬三

【編著書】

『天平の華 東大寺と国分寺』（明治大学博物館、2013年10月 48p・編・共著）

『明治大学博物館所蔵 前場幸治瓦コレクション資料目録』（明治大学博物館、2014年3月 72p・共著）

『博物館展示論』（講談社、2014年3月 175p・共編著）

【講演等】

「William Gowland's role at the Japan Mint」（ロンドン Japan Foundation Public Seminar 2013年8月）

「発掘された子どもの歴史—考古資料に見る子どもたちの生き方—」（千葉県船橋市飛ノ台史跡公園博物館「縄文大学」2013年10月）

「考古資料から見た子ども—旧石器時代から近世まで—」（神奈川県埋蔵文化財センター考古学ゼミナール「子どもを解き明かす」2013年10月）

「馬渡埴輪製作遺跡の調査」（茨城県ひたちなか市 ひたちなか市埋蔵文化財調査センター設立25周年記念講演 2014年1月）

「祈りの道具・石製品」明治大学博物館入門講座「古墳時代の副葬品と被葬者」、2013年5月、明治大学アカデミーコモン、講師

「鍬と刀剣」明治大学博物館入門講座「古墳時代の副葬品と被葬者」、2013年6月、明治大学アカデミーコモン、講師

「武器と馬具」明治大学博物館入門講座「古墳時代の副葬品と被葬者」、2013年6月、明治大学アカデミーコモン、講師

「大きな鏡・小さな鏡」明治大学博物館入門講座「古墳時代の副葬品と被葬者」、2013年6月、明治大学アカデミーコモン、講師

「副葬品から被葬者をさぐる」明治大学博物館入門講座「古墳時代の副葬品と被葬者」、2013年6月、明治大学アカデミーコモン、講師

「稲作の始まり」明治大学博物館入門講座「弥生時代の稲作伝播をさぐる」、2013年11月、明治大学アカデミーコモン、講師

「木と石の農具」明治大学博物館入門講座「弥生時代の稲作伝播をさぐる」、2013年11月、明治大学アカデミー

コモン、講師

「住まいと水田」明治大学博物館入門講座「弥生時代の稲作伝播をさぐる」、2013年12月、明治大学アカデミーコモン、講師

「関東以北の稲作を探る」明治大学博物館入門講座「弥生時代の稲作伝播をさぐる」、2013年12月、明治大学アカデミーコモン、講師

「ドキュメント資料からさぐるガウランドの調査と研究」明治大学博物館公開講座第53回考古学ゼミナール「大英博物館所蔵ガウランド・コレクションの研究」、2013年12月、明治大学アカデミーコモン、講師

「弥生時代の石器」明治大学博物館友の会弥生文化研究会講演会、2014年3月、明治大学アカデミーコモン、講師

3 刊行物

①『明治大学博物館研究報告』第19号

A4判 80頁 1,100部

<研究報告>

「日本商業史における独占的流通体系—佐賀藩の藩専売仕法における陶磁器の独占的流通体系を事例に—」

上原義子

「坂本万七の文化財写真について—明治大学所蔵坂本万七写真研究所資料を中心に—」 白政晶子

<資料報告>

「柏峠産黒曜石の記載岩石学的特性・岩石化学・噴火年代—黒曜石製遺物の産地推定に関する基礎資料—」 杉原重夫・柴田 徹・長井雅史

「内藤家文書の幕長戦争関係史料について」 大浪和弥

「内藤藩における藩祖家長と子息元長の霊神勧請関係史料について」 外山 徹

<講義・講演抄録>

「伝統的工芸品の経営とマーケティング Vol. 8 備前焼の歴史・産地形成と最新動向—伝統陶器産地における市場動向と商品開発の変容—」 「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト推進部会

「明治大学考古学博物館のコレクション形成と西志賀貝塚の調査」 大塚初重

②特別展図録『天平の華 東大寺と国分寺』

A4判 48頁 初版1,000部 2版500部

編集：忽那敬三 発行：明治大学博物館

③『明治大学博物館所蔵前場幸治瓦コレクション資料目録』

A4判 72頁 300部

編集：山路直充（博物館研究調査員）、森本尚子（同）、忽那敬三 発行：明治大学博物館

4 大久保忠和考古学振興基金

(1) 募集要項

この基金は、本大学文学部史学地理学科考古学専攻第41期卒業生の故大久保忠和氏の遺志を生かすため、ご遺族から寄せられた指定寄付金をもとに設置されました。基金は、考古学および博物館にかかわる、優れた調査・研究を奨励することにより、考古学の振興および博物館の発展に寄与することを目的としています。

2013年度の募集要項は、以下のとおりです。

1. 対象となる研究

考古学および博物館にかかわる調査と研究。

2. 応募資格および条件

本学の考古学専攻在籍者（大学院生に限る）・考古学専攻卒業生・教職員・博物館友の会会員および関係者が推薦する者。友の会会員の場合は、入会から3年以上を経過した会員を対象とします。なお、本奨励金は、主に科学研究費補助金等の公的助成金に申請資格を有さない研究者の支援を趣旨としています。

3. 奨励金額

公募研究A：個人による調査と研究に対する奨励

A-1：研究期間1年間（交付から2014年3月まで）

1件20万円以内とします。

A-2：研究期間2年間（交付から2015年3月まで）

1件40万円以内とします。

公募研究B：複数の研究者による共同の調査と研究に対する奨励

B-1：研究期間2年間（交付から2015年3月まで）

1件100万円以内とします。

B-2：研究期間3年間（交付から2016年3月まで）

1件200万円以内とします。

4. 審査と交付

本学博物館に設置されている大久保忠和考古学振興基金運営委員会において、研究計画調書の内容にもとづいて厳正に審査・選考した上で、2013年5月下旬までに応募者に採否および奨励金額を通知し、採択者には6月上旬までに博物館にて奨励金をお渡しいたします。日時はあらかじめ通知します。なお、採否の理由についての照会には、一切回答いたしかねますのでご了承下さい。また、本奨励金は個人所得となりますので、所得税源泉徴収後の金額が支給金額となります。

5. 研究成果について

本基金による調査・研究の成果については、下記のように報告・公表することが義務となります。

(1) 行った研究に関する概要レポート（A4判で1枚程度）を交付から単年度ごと（当該年度の3月末日まで）に博物館事務室まで提出して下さい。

(2) 研究期間の終了後、1年以内に下記の刊行物等で研究成果を発表して下さい。

①『駿台史学』『明治大学博物館研究報告』等の学内学術刊行物（投稿規程がありますので、事前にご一報ください）

②学外の考古学・博物館学関係の学術雑誌・研究紀要もしくは単行本等

※いずれの場合も「2013年度明治大学大久保忠和考古学振興基金」の成果であることを明記して下さい。

※なお、単行本など冊子体での成果報告を行う場合、本基金にもとづく「研究成果刊行助成金」（200万円以内）を別途設けています。詳細は、下記連絡先までお問い合わせください。

(3) 掲載誌等（抜刷可）を2部提出して下さい。

(4) 支出した経費内訳一覧とこれに対応する旅費交通費を含む領収書（コピー可）を研究期間終了後1ヶ月以内に博物館事務室に提出して下さい。

なし

B-2（共同研究 研究期間：3ヵ年）

なし

6. 応募期間

2013年3月1日（金）～3月29日（金）必着

7. 申し込み方法

所定の研究計画調書様式に必要事項を記入・押印のうえ、上記期間内に下記あてに郵送していただくか、もしくはご持参下さい。研究計画調書様式は適宜PCで作成していただいで結構ですが、電子版をご用意の方は、下記eメールアドレスまでご連絡ください。

なお、ご不明な点は、明治大学博物館 忽那敬三（考古部門担当学芸員）までお問い合わせ下さい。

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

明治大学博物館大久保忠和考古学振興基金運営委員会事務局宛

TEL 03-3296-4431,4448 FAX 03-3296-4365

e-mail : ma04027@mics.meiji.ac.jp（忽那）

(2) 2013年度奨励者

A 公募研究（単独）

A-1（個人研究 研究期間：1ヵ年）

安田幸世「博物館における学習支援教材について」

A-2（個人研究 研究期間：2ヵ年）

加藤俊吾「明治期に採集された東北地方貝塚資料の関連資料調査」

佐久間正明「古墳時代中期における石製模造品の製作と展開」

鈴木瑞穂「古代の鑄造原料（銅素材）の品質と流通の実態に関する研究」

高橋 満「縄文期製塩土器の製作痕跡属性の共有化に向けた資料提示方法の再検討」

渡邊裕之「中部・北陸地方における縄文時代後・晩期土器編年の整備と集落動態の研究」

B 公募研究（共同）

B-1（共同研究 研究期間：2ヵ年）

IV 収 蔵 資 料

(1) 資料収集

①資料数（部門別）

	刑事	考古	商品	合 計
受 購入	17	13	2	32
入 受贈	97	31	2	130
合計	114	44	4	162
前年度総数	214,705	78,689	4,751	298,145
当年度総数	214,819	78,733	4,755	298,307
時田昌瑞ことわざコレクション				1,450
前場幸治瓦コレクション				10,725
総合計				310,482

※資料購入費と参考図書と同じ予算科目で購入していたため、2012年度版までの資料数には図書の数量が混在していた。そのため、2013年度版では収蔵資料数の実数に近い数値を採用することとした。

②購入資料一覧

種別・分類	資料名
刑事関係 器物	袖搦（嘉永5年・平野村銘）
刑事関係 外国書	DIE TORTUR
和書・ 古文書	木曾長良揖斐三川改修関係資料（6点） 大奥御法度 俳諧参語（内藤家旧蔵） 武器二百図 誅伐者道具試帳 八丈遠島代助御救免嘆願書案紙 御触書廻状（丑12月 異風頭巾禁止）
錦絵	易兵衛敵打 羽州高湯温泉図 出羽庄内酒田風景
考古遺物 レプリカ制作	前場コレクション常陸国分寺瓦体験用 レプリカ 岩宿遺跡出土石器レプリカ（8点）
考古遺物	伝長野県伊那郡西高遠出土鉄地金銅張 釣鐘形鏡板 法隆寺式軒丸瓦 大安寺式軒平瓦片 伝浦添城文字瓦片
商品資料	有田焼 鍋島様式桜樹文7寸皿 有田焼 金欄手様式花籠絵飾り枕香壺

③受贈資料一覧

部門	資料名
刑事	深山流術手之覚 刀尺寸法心定 猶村是閑流一己働之卷 山口流附尾尖刀 山口流許状 神罰起請文之写 小太刀本目録 山口流中許之卷 （無記名包紙2点） （神道・陰陽道関係書類8点一括） （山口流許状関係包紙5点一括） 戸入戸出切紙 許状（山口流） 山口流諸巻物伝来之次第 短刀 脇差 元刑事博物館長島田正郎先生旧蔵書（80点） Die Bilder（私家版拷問刑罰関係論集）
考古	韓国金海市良洞里古墳小形器台片 縄文時代の石器（30点）
商品	清水焼・チャイナマホー瓶 赤津焼・漬物揃

④寄託資料

- ア 『刑罪大秘録』他3点
受託期間 2012年4月1日～2017年3月31日
- イ 故里見庫男氏所蔵文書（3373点及び未整理史料）
受託期間 2013年4月1日～2016年3月31日
福島県いわき市域の村方文書。譜代大名内藤家の旧領地域。地元の郷土史研究団体（いわき地域史学会）及び大学院文学研究科日本史専攻生等による調査・整理作業がおこなわれた資料群。
- ウ 内藤家文書近代史料（149点）
受託期間 2013年10月1日～2016年9月30日

⑤資料修復

- ア 内藤家伝来 螺鈿漆小箆筒
イ 砂川遺跡石器接合資料模型の簡易着色

(2) 資料整理

①商品部門

- ア 2012年度収集資料のカード台帳作成
イ 収蔵資料所在調査・再配架（竹木工品、文具、和紙、陶磁器）

②刑事部門

- ア 内藤家文書内藤政道氏寄贈史料整理
- イ マイクロフィルム等2次資料整理（継続中）
- ウ 購入資料未配架分の保存容器製作
- エ 島田正郎先生旧蔵フィルム・図書 of 整理

③考古部門

- ア 坂本万七写真研究所寄贈写真資料の台帳整備
- イ 茨城県玉里舟塚古墳出土埴輪資料の整理
- ウ ガラス乾板の保存処置
- エ 収蔵資料の所在確認
- オ 前場幸治瓦コレクションの整理（明治大学日本古代学研究所と共同作業）
- カ 矢島恭介資料の整理（点数・内容確認）

(3) 資料記録

①撮影

- ア 商品部門 該当なし
- イ 刑事部門
 - ・内藤家文書大型絵図 16カット4点
- ウ 考古部門
 - ・前場資料撮影 2,370カット
 - ・コンテンツ用立体撮影 7点

②デジタル化

- ア 考古部門

収蔵資料の360°インタラクティブ・デジタルコンテンツの制作。コンテンツはiOSアプリとして制作しており、2014年度までにコンテンツ数を順次増やし、2015年度にiTunes Uより公開する予定。

(4) 資料利用

①資料貸出・掲載・撮影件数

	刑事	考古	商品	合計
一次資料 出品数	7点	686点	—	693点
レプリカ等 出品数	0点	8点	—	8点
撮影	1,122点	1点	—	1,123点
掲載等	342点	240点	—	582点
のべ利用数	163件 1,471点	97件 935点	—	

②収蔵資料閲覧

調査閲覧	刑事部門		考古部門
	古文書	マイクロ	
人数	3,858点	137リール	68件
	182名		

③貸出先・展覧会・出展資料一覧

- ア 刑事部門
 - (ア) 延岡市内藤記念館

「能面のおもて —内藤家旧蔵の能面—」展
展示期間：2013年9月14日～10月14日
内藤家文書 1-28-22「祭礼並祈禱代参諸遷宮神事能取
嘸」他 計7点
 - イ 考古部門
 - (ア) 大韓民国 石壮里博物館

「岩宿遺跡」展
貸出期間：2013年6月17日～2014年2月15日
重要文化財 群馬県岩宿遺跡出土品 他 計44点
 - (イ) 茨城県立歴史館

特別展「はにわの世界—茨城の形象埴輪とその周辺—」
会期：2013年10月12日～11月24日
茨城県玉里舟塚古墳出土家形埴輪 他 計4点
 - (ウ) 明治大学理工学部応用化学科

特別展「『化学の目で見た漆』～縄文漆器をみる～」
開催期間：2013年6月6日～6月27日
青森県亀ヶ岡遺跡出土漆塗壺形土器 他 計3点
 - (エ) 岩宿博物館

岩宿博物館常設展示室（「岩宿時代のムラと社会」・「岩宿文化の地域性」のコーナーに展示）
借用期間：2013年7月1日～2014年6月30日
群馬県武井遺跡出土石器 他 計330点
 - (オ) 新潟県立歴史博物館

夏季企画展「弥生時代のにいがた—時代がかわるとき—」
会期：2013年7月27日～9月8日
新潟県六野瀬遺跡出土土器 他 計11点
 - (カ) 大妻女子大学博物館

2013年度常設展「日本人のくらしの知と美」
開催期間：2013年4月11日～2014年1月25日
青森県尾駱遺跡出土尖底深鉢形土器 他 計7点
 - (キ) 栃木県立博物館

栃木県立博物館第107回企画展「弥生人の祈り—東国の再葬墓—」
会期：2013年10月5日～11月24日
栃木県出流原遺跡出土資料 他 計18点
 - (ク) 島根県立古代出雲歴史博物館

企画展「山陰の黎明 縄文のムラと暮らし」
会期：2013年10月4日～12月1日
青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 計1点
 - (ケ) 御代田町立浅間縄文ミュージアム

「細石刃—氷河期を彩るミニ石器展」
会期：2013年9月14日～11月17日
北海道白滝服部台遺跡出土石器 他 計83点
 - (コ) 岩宿博物館

第56回企画展「巨大遺跡の謎を追う—武井遺跡発掘60周年—」
展示期間：2013年10月5日～11月24日
群馬県武井Ⅱ石器文化出土石器 他 計142点
 - (サ) 袖ヶ浦市郷土博物館

- 企画展Ⅱ「上総の古鏡—カガミが語る古墳時代の心と形—」
 展示期間：2013年10月5日～11月24日
 A-194 長宜子孫銘内行花文鏡 他 計8点
 (シ) 宮崎県立西都原考古博物館
 平成26年度特別展「西都原の100年 考古博の10年
 そして、次の時代へ (I) ～西都原の逸品たち～」
 展示期間：2014年4月19日～6月22日
 日向国児湯郡百塚原出土環頭大刀 環頭ほか 計4点
 (ス) 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館
 国立歴史民俗博物館総合展示第1展示室 (テーマ名 日本文化のあけぼの)
 期間：2014年4月1日～2015年3月31日
 佐賀県茶園原遺跡出土品 計10点
 (セ) 岩手県立博物館
 岩手県立博物館常設展示
 期間：2014年4月1日～2015年3月31日
 岩手県雨滝遺跡出土資料 計29点
 ※2013年度中に手続きが終了したものを掲載。展覧会名は申請書面に記されたもの。

④資料利用一覧

ア 刑事部門

(ア) 延岡市内藤記念館

フィルム複製およびデジタルデータ化
 内藤家文書 絵図関係フィルム 計53点

(イ) 京都府立総合資料館

写真版の公開と利用
 京北野新地文書 計94点

イ 考古部門

(ア) 山口大学埋蔵文化財資料館

日本地球惑星科学連合2013年度連合大会におけるポスター発表でデータとして使用

千葉県堀之内貝塚出土のニホンジカ(3点)、イノシシ(3点)の歯のストロンチウム同位体分析の結果(データ)

(イ) 特定非営利活動法人博物館活動支援センター

平成25年度博物館実践講座(その2)「拓本墨の作り方・拓本の採り方」にて使用

柄鏡 計20点

⑤掲載一覧

ア 刑事部門

『徳川幕府刑事図譜』 白洲の図 他 「謎解き!江戸のスズメ」#55 BS-TBS

『徳川幕府刑事図譜』 遠島出船の図 「謎解き!江戸のスズメ」#56 BS-TBS

今川仮名目録 『戦国武将列伝 真の最強は誰だ?』メディアックス

名和コレクション 江戸町奉行所同心真鍮銀流し十手 他 「江戸新聞」 西日本通信社

地方測量之図 本渡章『大阪古地図パラダイス』140B

甲州北山筋西八幡村検地水帳 「BS歴史館」～第75回 関孝和～ NHK BSプレミアム

『徳川幕府刑事図譜』 捕縛の図(十手の使用法) 他 「謎解き!江戸のスズメ」#57 BS-TBS

『徳川幕府刑事図譜』 拷問の図(笞打) 他 『悪役日本史 人物列伝』 日本文芸社

『徳川幕府刑事図譜』 賭博の図 『週刊歴史のミステリー』第59号改訂版(紙版/電子書籍版) デアゴスティーニ・ジャパン

今川仮名目録 他 『日本の100人』第97号/今川義元 デアゴスティーニ・ジャパン

禁中並公家中諸法度 「謎解き!江戸のスズメ」#62 BS-TBS

内藤家文書 3-11-44 覚(生類憐み等申渡三カ条他) 他 藤井譲治『日本史リブレット85 江戸時代のお触れ』 山川出版社

帝都復興記念分間大江戸絵図(刑事部門所蔵・2007年度収集品) 「高尾山歴史の散歩道15 江戸における信徒交流」(『高尾山報』593号) 大本山高尾山薬王院

今川仮名目録 他 「歴史探訪」シリーズ『教科書が教えてくれない日本国憲法 その歴史と現在』 晋遊舎
 時世のぼり凧 『ともに学ぶ人間の歴史』(中学社会) 学び舎

『徳川幕府刑事図譜』 捕縛の図(十手の使用法) 他 『別冊宝島 大江戸くらし大図鑑』 宝島社

公事方御定書 他 洋泉社MOOK『歴史REAL 大江戸“侍”入門』 洋泉社

帝都復興記念分間大江戸絵図(刑事部門所蔵・2007年度収集品) 「高尾山歴史の散歩道16 尾張徳川家の祈禱所」(『高尾山報』594号) 大本山高尾山薬王院
 鑑札 株仲間札 高橋勝『社会科学習事典』 文英堂

6-B-49 明治10(1877)年6月 西南戦争の投降勅告ピラ 落合弘樹『西南戦争と西郷隆盛』 吉川弘文館
 今川仮名目録 『戦国時代がわかる!』 成美堂出版

内藤家文書 1-4-468-1 江戸御屋敷絵図一袋 御上屋敷 他 ホームページ「幕末の延岡藩」

名和コレクション 捕者三つ道具 突棒・刺又・袖搦 『日本の歴史の道具事典』 岩崎書店

内藤家文書 内藤充真院繁子道中日記「五十三次ねむりの合いの手」 文久3年9月1日条のばんば踊り挿絵 「のべおか郷土芸能フェスティバル」パンフレット

高札 太政官札 キリシタン禁制(慶応4年) 2013年度後期(高3・高卒生対象)「日本史写真資料集」 河合塾
 『徳川幕府刑事図譜』 捕縛の図(早縄) 安田清人「時代劇を斬る!」(『週刊ポスト』) 小学館

御成敗式目 他 『週刊 新発見!日本の歴史』19号「2000年歴史絵巻」 朝日新聞出版

武家諸法度 他 江戸歴史文化検定協会編『江戸検クイズ 百問答』 事件編 小学館

『徳川幕府刑事図譜』 白洲の図 他 『図解 江戸用語早わかり辞典』 ナツメ社

禁中並公家中諸法度 『週刊 新発見!日本の歴史』28号

- 「江戸1 徳川家康の国家構想」号 朝日新聞出版
 『徳川幕府刑事図譜』 捕縛の図 (凶悪犯のはしご捕り)
 『歴史の資料』 正進社
地方測量之図 中村隆典『孫の手ステッキは神様の贈り物』
 梓書院
播磨国姫路藩 (酒井氏) 土小河原家文書 御入国以前之江戸絵図 高橋一「武蔵国熊野里修験笹井観音堂 (2)」
 (『埼玉史談』60 巻第3号) 埼玉県郷土文化会
 『徳川幕府刑事図譜』 御様の図 「スーパーJチャンネル」
 Jのこだわり: 骨董品鑑定第9弾 テレビ朝日
 『徳川幕府刑事図譜』 斬罪仕置の図 他 「謎解き! 江戸のススメ」#78 BS-TBS
今川仮名目録 『新発見! 日本の歴史』27号 (戦国大名たちの素顔) 朝日新聞出版
 『徳川幕府刑事図譜』 獄門の図 「す・またん/ZIP!」
 読売テレビ
内藤家文書 3-23-11 日向延岡関係絵図 35-6 有馬家中延岡城下屋敷並絵図 他 延岡城内遺跡 (第26次) 発掘調査概要報告 (延岡市公式ホームページ及び発掘調査概要報告書) 延岡市教育委員会
武家諸法度 「歴史発見 城下町へ行こう!」(和歌山編) BS 朝日
今川仮名目録 静岡市歴史文化フォーラム「今川と徳川秘められた静岡の魅力」講演スライド
御定書百箇條 「謎解き! 江戸のススメ」#84 近松門左衛門 BS-TBS
水戸藩小石川御屋敷御庭之図 『週刊 新発見! 日本の歴史』30号 朝日新聞出版
 『徳川幕府刑事図譜』 拷問の図 (釣責) 松岡司『正伝 岡田以蔵』 戎光祥出版
今川仮名目録 月刊『歴史読本』2014年1月号 連載ページ「東大のディープな日本史」 KADOKAWA
内藤家文書 1-20-19 (1) 日光御社参之節古道口御勤番覚帳 五 他 野田市史編纂委員会編『野田市史研究』24 野田市
 『徳川幕府刑事図譜』 遠島出船の図 他 「謎解き! 江戸のススメ」#86 江戸の警備 BS-TBS
鑑札 株仲間札 『歴史人』1月号「徳川十五代将軍」ベストセラーズ
城州伏見に於て戦争の図(慶応4年正月) 平成25年度「到達と確認⑦ 社会」教育統計会
地方測量之図 2014年度版『社会4年デイリーサピックス』440-08 日本入試センター
地方測量之図 小学校社会科教科書『新編 新しい社会6上』および指導書・宣刊物 東京書籍
文化武鑑 (刑事部門所蔵) 他 外山徹『高尾山薬王院の歴史』 ふくく出版
伏見関門口豊後橋進撃之図(慶応4年正月) 『新長崎市史』第三巻・長崎市公式ホームページ 長崎市
 『徳川幕府刑事図譜』 捕縛の図 (十手の使用法) 他 『隔週刊 剣客商売 DVD コレクション』9号 デアゴステイニ・ジャパン
 『徳川幕府刑事図譜』 拷問の図 (釣責) 他 『NHK 歴史秘話ヒストリア』3江戸時代編 金の星社
 『徳川幕府刑事図譜』 白洲の図 他 笹倉秀夫『法学講義』 東京大学出版会
内藤家文書 3-2-61 「神文前書」 他 大河内千恵『近世起請文の研究』 吉川弘文館
 『徳川幕府刑事図譜』 白洲の図 入澤宣幸・有沢重雄『大迫力! 写真と絵でわかる日本のナンバー2列伝』 西東社
 『徳川幕府刑事図譜』 拷問の図 (石抱責もしくは算盤責) 他 「ドォーモ」ホームページ 九州朝日放送
 『徳川幕府刑事図譜』 遠島出船の図 他 「謎解き! 江戸のススメ」#97 江戸事故 BS-TBS
 『徳川幕府刑事図譜』 拷問の図 (答打) 井沢元彦『[実況ライブ!] 学校では教えてくれない日本史の授業』 PHP エディターズ・グループ
口上之覚 生類憐み令 「日本史 汚名返上~「悪人」たちの真実」#2 徳川綱吉 ヒストリーチャンネル・ジャパン
 『徳川幕府刑事図譜』 切腹の図 他 山本博文『切腹』 光文社
地方測量之図 NHK デジタル教材「NHK for school」
御触書 (高札-0014) 「歴史秘話ヒストリア 大発見 歌麿の最高傑作 巨大美人画に秘められた真実」 NHK 総合
内藤家文書 3-23-11 日向延岡関係絵図-35-6 有馬家中延岡城下屋敷並絵図 『日本の城』62号 デアゴステイニ・ジャパン
長竹村本多家文書 明治6年5月「記 生糸改会社設立に付達書」 『ふるさと津久井』第6号 相模原市
 『徳川幕府刑事図譜』 捕縛の図 (十手の使用法) 他 『宝島 SUGOI 文庫 大江戸くらし大事典』 宝島社
水戸藩小石川御屋敷御庭之図 『小石川後楽園円月橋修理工事報告書』 東京都建設局東部公園緑地事務所
鎖鎌 (石見守直次作) ネットミュージアム兵庫文学館 企画展示「宮本武蔵 力と美」
江戸名所図会巻一「駿河町三井越後屋呉服店挿絵」(刑事部門所蔵) 「高尾山歴史の散歩道 24 護摩札の配札 2」(『高尾山報』602号) 大本山高尾山薬王院
三河国拳母藩 (内藤氏) 文書 48-乙-235 上野国安中城絵図 『城絵図にみる上州戦国時代—富原文庫蔵 城絵図の世界—』安中市教育委員会
板倉家文書 伊勢国高郷帳 他 「亀山市史」ウェブ版 亀山市
 『徳川幕府刑事図譜』 捕縛の図 (十手の使用法) 他 中国語版『江戸の町と暮らしがわかる本』 楓樹林出版
長竹村本多家文書 志田山御林絵図 県立津久井湖城山公園ガイドブック『津久井城ものがたり』(紙媒体及びホームページ掲載) 厚木土木事務所津久井治水センター
 『徳川幕府刑事図譜』 旧江戸伝馬町牢獄内 昼の図 他 『新装版 世界の処刑と拷問』 笠倉出版社
名和コレクション 捕縄 他 洋泉社 MOOK『歴史

- REAL 鬼平と大江戸犯科帳』 洋泉社
- イ 考古部門
- 東京都茂呂遺跡出土ナイフ形石器 他 詳説日本史図録編集委員会『詳説 日本史図録』第6版 山川出版社
- 群馬県岩宿遺跡出土石斧 他 ビジュアル版日本史図録編集委員会『ビジュアル版 日本史図録』 山川出版社
- 東京都茂呂遺跡出土ナイフ形石器 他 NHK 教育映像のインターネット配信
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 洋泉社 MOOK『入門 縄文の世界』 洋泉社
- 群馬県岩宿遺跡発掘調査風景 他 木下正史『日本古代の歴史1 倭国のなりたち』 吉川弘文館
- 東京都西之台 B 遺跡出土礫器 他 設楽博己『遺跡から調べよう!』①旧石器・縄文②弥生 童心社
- 福島県南御山遺跡出土土器 「北海道考古学会 2013 年度研究大会研究発表予稿集」 北海道考古学会
- 群馬県岩宿遺跡出土石斧 日本博学倶楽部『人類誕生から大和朝廷までの 700 万年史』 PHP 出版
- 群馬県武井遺跡出土尖頭器 『出るナビ 高校入試 社会』 学研教育出版
- 神奈川県上土棚遺跡出土ナイフ形石器 他 『日本の歴史の道具事典』 岩崎書店
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『1・2年の入試総復習 社会』 塾用問題集 学書
- 千葉県堀之内貝塚出土土版 梅原猛『縄文の神秘』(文庫及び電子書籍) 学研パブリッシング
- 栃木県出流原遺跡再葬墓 『新詳日本史』 浜島書店
- 千葉県江原台遺跡出土山形土偶 他 別冊太陽『縄文の力』 平凡社
- 群馬県岩宿遺跡出土品 展示映像「南九州の巨大噴火の歴史」 環境省えびのエコミュージアムセンター
- 神奈川県夏島貝塚出土尖底深鉢形土器 『ともに学ぶ人間の歴史』(2014 年度文部科学省検定教科書) 学び舎
- 新潟県六野瀬遺跡出土壺形土器 他 夏季企画展「弥生時代のにいがた—時代がかわるとき—」 展示図録 新潟県立歴史博物館
- 2010 年度明治大学博物館特別展「王の埴輪—玉里舟塚古墳の埴輪群—」より 茨城県玉里舟塚古墳形象埴輪配列想定概念図 他 平成 25 年度特別展 I 「はにわの世界—茨城の形象埴輪とその周辺—」 パネル・図録 茨城県立歴史館
- 静岡県登呂遺跡住居跡(昭和 24 年・第 4 次) 他 『月刊歴史読本』 9 月号 中経出版
- A81 三角縁神獸鏡(古墳時代) 他 「金型業界紹介ビデオ」 日本金型工業会
- 群馬県武井遺跡出土尖頭器 『高校入試の最重要問題 社会』 学研教育出版
- 岩宿の発掘 『理解しやすい日本史 B』 文英堂
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 平成 26 年度『進研ゼミ 中学講座 中 1・中 2 チャレンジ社会』 紙媒体教材及び WEB 教材 ベネッセコーポレーション
- 埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 他 『図説 日本史通覧』 帝国書院
- 栃木県出流原遺跡関連の写真 他 展示図録『弥生人の祈り—東国の再葬墓—』 栃木県立博物館
- 愛知県五貫森貝塚出土打製石器 他 『Ⅱ期ゼミ 中 1 社会』 塾用問題集 ティエラコム
- 群馬県武井遺跡出土尖頭器 『マイスタディガイド 中学社会』 学研教育出版
- 千葉県江原台遺跡(曲輪ノ内貝塚) 出土山形土偶 『佐倉市史 考古編』 佐倉市
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 他 『4 ステージ演習ノート 日本史 B』 数研出版
- 福岡県板付遺跡出土弥生土器 平成 26 年度 進研ゼミ 中学講座『中 1 定期テスト予想問題集 社会』 平成 26 年度 進研ゼミ 中学講座『中 2 定期テスト予想問題集 社会』 ベネッセコーポレーション
- 福岡県板付遺跡出土弥生土器 平成 26 年度 進研ゼミ 難関私立中高一貫講座『定期テスト予想問題集 社会』 ベネッセコーポレーション
- A-194 長宜子孫銘内行花文鏡 他 企画展Ⅱ「上総の古鏡—カガミが語る古墳時代の心と形—」 写真パネル 袖ヶ浦市郷土博物館
- 埼玉県砂川遺跡出土石器接合例 『日経トレンディ』 11 月号 / 3D プリンターのすべて 日経 BP 社
- 福岡県岡垣銅矛 他 柳田康雄『日本・朝鮮半島の青銅武器研究』 雄山閣
- 千葉県江原台遺跡出土山形土偶 三上徹也『縄文土偶ガイドブック』 新泉社
- 北海道白滝服部台遺跡出土細石器 他 『新詳日本史』 浜島書店
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 他 『基礎完ターゲット』 塾用問題集 学書
- 群馬県岩宿遺跡出土土器 「河合塾サテライト講座」 河合塾
- 神奈川県夏島貝塚出土尖底深鉢形土器 『2013/2014 代々木ゼミナール公開模試 高 2 センター模試』 高宮学園 代々木ゼミナール
- 群馬県岩宿遺跡出土石斧 他 『Winning COM-PASS 日本史の整理と演習』 東京法令出版
- 群馬県岩宿遺跡出土土器 他 門脇禎二『チャート式シリーズ 新日本史』 数研出版
- 群馬県岩宿遺跡出土土器 『片品村誌』 片品村
- 青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『中学準備講座』 塾用問題集 野田塾
- 栃木県篠山貝塚出土縄文土器 『実力完成問題集』 社会 正進社
- 福岡県板付遺跡出土壺形土器 平成 26 年度『進研ゼミ 中学講座 中 2 5 教科パーフェクト事典』 ベネッセコーポレーション
- 東京都芝丸山古墳出土ガラス 企画展「古代文化財の謎をとく—X 線で見えてくる昔のこと—」 図録 東京理科大学近代科学資料館

千葉県佐倉市上座貝塚発掘調査（昭和 32 年）時に検出された貝塚の写真 『佐倉市史 考古編』 佐倉市

群馬県岩宿遺跡出土石斧 『ビジュアル版 日本史図録』 山川出版社

愛知県五貫森遺跡出土磨製石器 「スマイルゼミ 中学コース」中学生 1 年向通信教育教材 ジャストシステム

栃木県篠山貝塚出土縄文土器 『Ⅲ期ゼミ 小 6 社会 理科合本』 塾用問題集 ティエラコム

青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 他 『Ⅲ期ゼミ 中 1 社会』 塾用問題集 ティエラコム

青森県亀ヶ岡遺跡出土遮光器土偶 『週刊歴史のミステリー改訂版』95 号（紙版／デジタル版）デアゴスティーニ・ジャパン

神奈川県夏島貝塚貝層 『「もしも？」の図鑑 縄文人がばくの家にやってきたら!？」 実業之日本社

福岡県板付遺跡出土壺形土器 平成 26 年度 進研ゼミ中学講座『入試によく出る基礎 社会』 ベネッセコーポレーション

千葉県岩名天神前遺跡第 2 号墓墳 『鎌ヶ谷市史』上巻（改訂版）第 3 編「弥生時代」 鎌ヶ谷市

長野県矢出川遺跡出土石器 他 『季刊考古学』126 号 特集「日本旧石器時代の成り立ちと文化」 雄山閣

前場コレクション 小田原城出土三葉葵紋丸瓦 他 「江戸遺跡研究会第 27 回大会発表要旨」 江戸遺跡研究会

愛知県五貫森遺跡出土磨製石器 他 『さなる式 歴史Ⅰ』 塾用問題集 学書

福岡県板付遺跡出土壺形土器 平成 25 年度 進研ゼミ難関私立中高一貫講座『中 1 Challenge』3 月号開講号 ベネッセコーポレーション

群馬県岩宿遺跡予備調査の様子 群馬県広報番組「ぐんま一番」 群馬テレビ

王の埴輪展示解説風景 他 黒沢浩（編著）『博物館展示論』 講談社

福岡県板付遺跡出土壺形土器 平成 26 年度 進研ゼミ中学講座『中 1 Challenge 英数国理社』8 月号【歴史専修／地歴並行】 ベネッセコーポレーション

群馬県岩宿遺跡出土打製石斧 『平成 26 年度 進研ゼミ考える力・プラス中学受験講座』8 月号 ベネッセコーポレーション

茨城県馬渡埴輪製作遺跡 A 地点埴輪窯検出状況 他 『埋文だより』第 40 号 ひたちなか市埋蔵文化財調査センター

神奈川県月見野 I 遺跡出土尖頭器 他 『2015 マーク式総合問題集 日本史 B』 河合出版

伝日向国百塚原出土環頭太刀（環頭と柄・鐔は実物 刀身・鞘は復元模造）図録『西都原の逸品たち』及び展示パネル・ポスター 宮崎県立西都原考古博物館

群馬県岩宿遺跡出土敲打器 他 「新選日本史 B 指導用 DVD」 東京書籍

群馬県岩宿遺跡出土敲打器 他 『新選日本史 B ワークノート』 東京書籍

京都府深草遺跡出土石包丁 『Ⅰ期ゼミ中 1 社会』 塾用問

題集 ティエラコム

神奈川県天神山遺跡出土石器 『久ヶ原・弥生町期の現在』 西相模考古学研究会

神奈川県天神山出土石戈 小田原の遺跡探訪シリーズ 9 『天神山周辺の原始・古代の遺跡』 小田原市教育委員会

埼玉県砂川遺跡出土ナイフ形石器 『週刊 新発見！日本の歴史』49 号 朝日新聞出版

群馬県岩宿遺跡出土石斧 日本博学倶楽部 電子書籍『人類誕生から大和朝廷までの 700 万年史』 PHP 研究所
※ 2013 年度中に手続きが終了したものを掲載。

(5) 図書

①蔵書数 2014 年 3 月 31 日現在

図書	全所蔵冊数	(冊)	81,780
	和	(冊)	81,007
	洋	(冊)	773
雑誌	全所蔵冊数	(タイトル)	2916
	和	(タイトル)	2866
	洋	(タイトル)	50

②購入・寄贈数

ア 図書受入数

総受入冊数		(冊)	2,281
図書受入冊数 製本雑誌を含む	購入	和 (冊)	117
		洋 (冊)	1
	寄贈	和 (冊)	2,159
		洋 (冊)	4

イ 雑誌継続タイトル数

総受入種類数		(タイトル)	985
雑誌受入種類数	和	(タイトル)	984
	洋	(タイトル)	1

※ 2013 年度統計より、図書館蔵書システムからの出力による数値を使用。

V 統計・資料

1 入館データ

(1) 入館状況

①開館日数・時間

ア 開館期間（休館日） 343日（休館日 8月10日～18日・12月26日～1月7日）

イ 開館時間 10：00～17：00

ウ 月別開館日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	30	31	30	31	22	30	31	30	25	24	28	31	343

②入館者・利用者数

ア 月別入館・利用者数

博物館	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
常設展	3567	4338	3811	3661	4412	3467	5510	4684	3090	2845	3134	3540	46059
特別展	2478	1666	2130	1703	1177	3272	1436	2704	1004	504	2028	955	21057
図書室	359	548	530	603	285	509	648	723	582	388	220	226	5621
教室等利用者数	135	155	192	143	38	213	236	216	220	256	190	260	2254
計	6539	6707	6663	6110	5912	7461	7830	8327	4896	3993	5572	4981	74991

イ 特別展入館者数

名称	期間	開館日数	入館者数
特別展 天平の華 東大寺と国分寺	10月19日～12月12日	55日	5,144名

ウ 主催・共同主催展入館者数

名称	期間	開館日数	入館者数
新収蔵・収蔵資料展 2013	3月23日～4月14日	23日間	1,625名
オーソドックスな古文書展示	5月25日～6月30日	37日間	2,592名
譜代大名内藤家文書の素顔	7月6日～8月9日	35日間	2,880名
有田焼—商品の伝統・進化・変容	2014年3月15日～4月27日	44日間	2,649名

エ その他展覧会

名称	期間	開館日数	入館者数
建築家とは何か：堀口捨己・神代雄一郎展	4月20日～5月19日	30日間	2,767名
SFと未来像展	9月1日～9月29日	29日間	3,272名
近代日本の幕開けと私立法律学校 —神田学生街と法典論争—	2014年1月24日～2月28日	36日間	2,532名

(2) 団体見学

①月別集計一覧

ア 学校団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	6	6	6	5	2	3	7	4	2	7	2	0	50
人数	66	254	99	152	37	96	298	104	77	123	46	0	1352

イ 一般団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	5	3	4	8	3	8	7	3	4	1	4	2	54
人数	72	56	104	149	52	163	202	65	88	20	87	36	1094

②団体一覧

4月

二水会、明治大学政治経済学部 水戸部ゼミ、朝日カルチャーセンター千葉、盛岡市立土淵中学校 3年生、法政大学 法哲学演習（ゼミ）、江戸散策の会、成城大学 刑事訴訟法ゼミ、NPO 東京都ウォーキング協会、開星高等学校 1年生、藤枝順心高等学校 1年生、商学部商学科昭和 42 年卒クラス会

5月

神奈川県立氷取沢高等学校、ふれあい大学 24 期てんてん会、都立一橋高等学校、山脇学園高等学校 1年生、史跡めぐりクラブ（さいたま市シニアユニバーシティ大宮校 4 期校友会）、共愛学園高等学校 2 年生、さいたま市シニアユニバーシティ北浦和校第 8 期校友会、岐阜市立岐阜中央中学校 3 年 3 組 4 班、千葉明德高等学校 1 年生

6月

横浜英和女学院中学・高等学校、岡崎市立甲山中学校、大原日本語学院、いわき史学同好会、福島成蹊高等学校 2・3 年生、群馬県立前橋東高等学校 1 年生、小春学院、明渡会、厚木市生涯学習「輝き厚木塾」、末広会

7月

講談社校友会、朝日カルチャーセンター「大江戸まち探見」講座、八千代ふれあい 14 期会、東部地区文化財担当者会、東京都立板橋有徳高等学校 1 年生、川口短期大学、サレジオ学院中高歴史部、デイサービスけやき、神奈川県立住吉高等学校 2 年生、深谷市教育委員会 生涯学習課、明治大学附属明治中学校、板橋区立小学校事務職員会、三和シャッター OB 会

8月

奈良校友会（奈良大学通信教育部校友会）、横須賀市観光ボランティアガイドの会、東村山第三中学校自然探究部、昭和薬科大学附属高等学校、毎日旅行社

9月

太平洋ツアー、福岡大学法学部基礎ゼミ、私大健保協議会、あすなろ会、NPO 法人 大阪府高齢者大学校 考古学研究科、関東学院中学校高等学校香柏会文化委員会、神戸学院大学 佐藤ゼミ、明治学院中学校、長三長寿会、シニア西口二期史跡クラブ、入間・比企地区人権教育推進協議会

10月

練馬古文書研究会、街歩きの達人、創英ゼミナール、茨城県立那珂高等学校 PTA、千葉県立銚子高等学校 1 年生、明治大学附属中野高等学校、エッセイ杉の子、駿台甲府中学校、関東学院中学校高等学校香柏会、富山県立富山南高等学校 2 年生、横浜富士見丘学園中等教育学校 1 年生、NHK 文化センターさいたま支社「津田令子の文学散歩」、足立歴史サークル、麴町学園女子高等学校

11月

神奈川大学法学ゼミナール、東京シティガイドクラブ、都立一橋高等学校、神奈川県立霧が丘高等学校 2 年生、山梨県立考古博物館協力会、パンチョス会、埼玉県立小川高等学校 1 年生

12月

読売・日本テレビ文化センター、埼玉いきがが大学蕨学園 13 期校友会、印刷文化懇話会神田川大曲塾、文京区立根津小学校、長崎県立佐世保西高等学校、東京を歩く会

2014 年

1月

お茶の水女子大学 文教育学部 考古学通論 2、トラベルキャスター津田令子さんが案内する旅、川崎市立大師中学校、中野区立北中野中学校 2 年生、三郷市立瑞穂中学校、SEMESTER AT SEA、府中市立府中第二中学校、二松學舎大学附属高等学校

2月

保善高等学校、さざなみ会、シニア大学大宮校ナンデモ体験隊、武蔵野学院大学 国際コミュニケーション学部、歩け 2 万キロ旅の会

3月

シュミートクラブ、就労移行支援事業所リバーサル

(3) 視察・研修受入

①受入団体数・参加人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
団体数	—	2	—	—	—	—	—	1	—	1	1	0	5
人数	—	16	—	—	—	—	—	2	—	2	2	0	22

②団体名一覧

創価大学見学実習（5月11日）、台湾政府法務省矯正局審議官一行（5月27日）、東京都立白鷗高等学校附属中学校
職場体験（11月12～14日）、立命館大学国際平和ミュージアム（2014年1月22日）、東京都立小石川中等教育学校
職場体験（2014年2月20～21日）

(4) 図書閲覧サービス

①図書室

ア 開室時間 月～土曜日 10:00～16:30

イ 閲覧者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学部生	148	335	313	365	140	285	372	444	345	209	74	46	3076
大学院生	43	45	25	51	17	29	33	18	14	16	19	13	323
明大教職員	10	19	16	22	15	22	16	21	15	24	15	5	200
友の会	26	19	34	36	18	27	43	23	26	20	18	30	320
リバティアカデミー 会員	10	14	14	8	3	8	5	9	8	4	4	2	89
聴講生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
OB	23	23	24	26	13	28	29	27	20	30	13	31	287
他大学学生	57	51	52	42	45	76	108	137	112	43	34	36	793
一般	32	36	47	39	30	24	29	37	32	33	33	46	418
明大その他	10	6	5	14	4	10	13	7	10	9	10	17	115
合計	359	548	530	603	285	509	648	723	582	388	220	226	5621
開室日数	26	24	25	27	17	22	27	24	20	22	23	25	282
1日平均 人	13.8	22.8	21.2	22.3	16.8	23.1	24.0	30.1	29.1	17.6	9.6	9.0	19.9

2 組織・構成

(1) 博物館スタッフ

①館長・副館長

任期：2012.4.1～2014.3.31

役職	氏名	所属	専門
館長	風間 信隆	商学部教授	比較経営論
副館長	渡 浩一	国際日本学部教授	日本文化史

②専任職員

役職	氏名	担当	専門
学術・社会 連携部長	白井 利光 (～6/9)		
	浮塚 利夫 (6/10～)		
博物館事務 長	坂元 昭一		
学芸員	外山 徹	商品・刑事部 門	博物館学/ 地域文化
学芸員	島田 和 高	考古部門	旧石器文化
学芸員	日比佳代子	刑事部門	日本近世史
学芸員	忽那 敬三	考古部門	弥生・古墳 文化

③非常勤職員

	氏名	担当
短期嘱託職員	織田 潤	庶務部門担当
短期嘱託職員	新井 ゆかり (～10/31)	庶務(図書)部門担当
短期嘱託職員	丸山 寛 (12/1～)	庶務(図書)部門担当
短期嘱託職員	荒木 仁朗 (～7/31)	刑事部門担当
短期嘱託職員	松尾 藍 (9/1～)	刑事部門担当
短期嘱託職員	海塚 有理	商品部門担当
短期嘱託職員	伊藤 友香子	考古部門担当
短期嘱託職員	土谷 あゆみ	考古部門担当

(2) 博物館協議会

①協議会 任期 2013.4.1～2015.3.31

委員長	矢島 國雄	文学部教授
副委員長	菊池 亮一	学術・社会連携部図書館総 務事務長
	山口 政信	法学部教授
	高橋 昭夫	商学部教授
	吉村 武彦	文学部教授
	阿部 芳郎	文学部教授
	佐々木 憲一	文学部教授

	野尻 泰弘	文学部専任講師
	宮腰 哲雄	理工学部教授
	薩摩 秀登	経営学部教授
	古屋野 素材	情報コミュニケーション学 部教授
	田部井 茂	教育支援部長 (～6/9) 経営企画部長 (6/10～)
	庄井 正志	国際連携部国際連携事務長
	浮塚 利夫 (～6/9)	学術・社会連携部社会連携 事務長 (～6/9)

②資料評価分科会 任期 2013.6.18～2015.3.31

座長	高橋 昭夫	商学部教授
	佐々木 憲一	文学部教授
	薩摩 秀登	経営学部教授
	野尻 泰弘	文学部専任講師

(3) 研究調査員

任期 2013.4.1～2014.3.31

菊池 一夫	商学部教授
上原 義子	商学部兼任講師
落合 弘樹	文学部教授
牛米 努	税務大学校租税史料室 文学部兼任講師
森 朋久	農学部兼任講師
山路 直充	市立市川考古博物館 文学部兼任講師
鈴木 知子	日本考古学協会員
森本 尚子	日本考古学協会員

(4) 各種委員会 ※校規に基づき設置

①大久保忠和考古学振興基金運営委員会

任期 2013.4.1～2015.3.31 ◎は博物館協議会委員

委員長	風間 信隆	博物館長	
	渡 浩一	副館長	
	安 蒜政雄	文学部教授・考古学専攻教 員	
	石川 日出志	文学部教授・考古学専攻教 員	
	阿部 芳郎	文学部教授・考古学専攻教 員	◎
	佐々木 憲一	文学部教授・考古学専攻主 任	◎
	藤山 龍造	文学部専任講師・考古学専 攻教員	
	矢島 國雄	文学部教授・学芸員養成課 程教員	◎

	吉田 優	文学部准教授・学芸員養成 課程教員	
	小川直裕	文学部OB	
	熊野正也	文学部OB	
	鈴木 弘	友の会会長	
	坂元昭一	博物館事務長	
	浮塚利夫	社会連携事務長（～6/9）	◎

(5) 作業部会

①博物館・大学院商学研究科・商学部連携
「伝統的工芸品の経営とマーケティング」プロジェクト
推進部会

◎は博物館協議会委員

座長	高橋昭夫	商学部教授（商品学）	◎
	菊池一夫	博物館研究調査員・商学 部教授（商業経営論）	
	上原義子	博物館研究調査員・商学 部兼任講師	
	外山 徹	博物館学芸員	

(6) 明治大学博物館友の会 2013 年度役員

相談役	風間信隆	渡 浩一	
顧問	大塚初重	倉田公裕	熊野正也
	杉原重夫		
会長	鈴木 弘		
副会長	野口 淳	平井孝雄	
理事	蕨 俊夫 (総務)	橋本秀夫 (行事)	村井孝行 (会計)
	青鹿良市 (広報)		
運営委員 (総務)	佐藤貞子	大島淑子	
〃(会計)	石橋知津子		
〃(行事)	松村祐安	本橋清美	
〃(広報)			
図書室 管理員代 表	木戸孝義		
展示解説 員代表	渡辺 やす子		
監 事	斉藤正美	支倉 紀代美	
分科会	古文書を読む会		高橋幸子
	平成内藤家文書研究会		粕谷宏幸
	工芸の会		石川雄治
	旧石器・縄文文化研究会		長野陽次
	弥生文化研究会		磯部隆信
	古文書の基礎を学ぶ会		石井吉彦

	東アジアの中の古代日本 研究会	松本浩男
	前方後円墳研究会	磯部隆信

(7) 各種会議開催日

①博物館協議会

6/18 2014/3/7

②資料評価分科会

7/16 12/12

③大久保忠和考古学振興基金運営委員会

4/30

④博物館・友の会連絡会議

5/16 9/26 11/21 2014/2/20 合計4回

3 予算・決算

(1) 2013 年度事業費予算・決算

予算

科目 \ 目的	博物館費	基金事業費	政策経費 1 特別展 「天平の華」	政策経費 2 大学博物館 交流事業	政策経費 3 内藤家文書 研究・交流	政策経費 4 前場瓦コレク ション整理	政策経費 5 施設改修	合計
兼務職員人件費	1,669,000	0	0	0	144,000	1,123,000	0	2,936,000
福利費	20,000	0	0	0	0	0	0	20,000
修繕費	150,000	0	0	0	0	0	720,000	870,000
旅費交通費	1,202,000	10,000	848,000	95,000	765,000	85,000	0	2,995,000
業務委託費	1,870,000	0	920,000	384,000	170,000	0	0	3,344,000
保険料	500,000	0	251,000	38,000	0	0	0	789,000
準備品	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の消耗品費	2,216,000	20,000	41,000	38,000	0	416,000	0	2,711,000
印刷製本費	3,060,000	0	1,004,000	160,000	0	835,000	0	5,059,000
運搬費	100,000	0	3,515,000	460,000	0	0	0	4,075,000
広告費	0	0	418,000	0	0	0	0	418,000
支払手数料	268,000	30,000	502,000	25,000	221,000	41,000	0	1,057,000
賃借料	20,000	0	0	0	0	0	0	20,000
会合費	120,000	60,000	83,000	0	0	0	0	203,000
公租公課	35,000	0	0	0	0	0	0	35,000
管) 準備品	0	0	0	0	0	0	0	0
管) その他の消耗品費	50,000	0	0	0	0	0	0	50,000
教) 雑費	0	0	0	0	0	0	0	0
教育研究用機器備品	6,000,000	0	418,000	0	0	0	0	6,418,000
図書	400,000	0	0	0	0	0	0	400,000
合計	17,680,000	120,000	8,000,000	1,200,000	1,300,000	2,500,000	720,000	31,400,000
前年度予算額	19,449,000							38,333,000
増・減 (△)	△ 1,769,000							△ 6,933,000

※金額は当初予算の額を入れており年度途中の予算振替は反映していない

※合計金額は博物館費と政策経費の合計で基金事業費を含んでいない

決算

科目 \ 目的	博物館費	基金事業費	政策経費 1 特別展 「天平の華」	政策経費 2 大学博物館 交流事業	政策経費 3 内藤家文書 研究・交流	政策経費 4 前場瓦コレク ション整理	政策経費 5 施設改修	合計
兼務職員人件費	1,454,780	0	0	0	138,440	1,420,846	0	3,014,066
福利費	0	0	0	0	0	0	0	0
修繕費	399,000	0	0	0	0	0	425,250	824,250
旅費交通費	1,631,163	0	690,083	48,830	927,510	98,780	0	3,396,366
業務委託費	1,041,615	0	716,131	388,500	0	0	0	2,146,246
保険料	283,500	0	0	12,440	0	0	0	295,940
準備品	864,130	0	0	199,500	0	0	0	1,063,630
その他の消耗品費	2,545,041	0	107,961	1,134	0	244,922	0	2,899,058
印刷製本費	1,388,751	0	1,138,200	42,000	0	300,000	0	2,868,951
運搬費	65,262	0	3,385,815	198,221	0	153,037	0	3,802,335
広告費	156,450	0	892,500	0	0	0	0	1,048,950

支払手数料	124,196	0	64,410	19,950	80,000	8,400	0	296,956
賃借料	15,603	0	0	0	0	0	0	15,603
会合費	85,103	18,900	89,163	0	0	0	0	174,266
公租公課	30,000	0	0	0	0	0	0	30,000
管) 準備品	77,490	0	0	0	0	0	0	77,490
管) その他の消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0
教) 雑費	2,000	2,055,175	0	0	0	0	0	2,000
教育研究用機器備品	4,704,000	0	0	0	0	0	0	4,704,000
図書	318,451	0	0	0	0	0	0	318,451
合 計	15,186,535	2,074,075	7,084,263	910,575	1,145,950	2,225,985	425,250	26,978,558
前年度決算額	16,059,919							33,705,360
増・減 (△)	△ 873,384							△ 6,726,802

※予算額を超える執行は年度途中で予算振替の措置を取っている

※合計金額は博物館費と政策経費の合計で基金事業費を含んでいない

※基金事業の奨励金額は「教) 雑費」として支出している

(2) 2013年度収入

科目：その他の雑収入	予算額	決算額
博物館発行資料売上代	600,000	919,383
公開講座等受講料	0	0
文献複写・資料代	10,000	729,630
撮影・掲載料	200,000	1,154,000
スライド販売料	0	0
出品謝礼	0	0
特別展入場料	450,000	209,700
特別講演会資料代	0	0
ミュージアムグッズ売上	10,000	595,660
その他	10,000	35,307
合 計	1,280,000	3,643,680
前年度予算・決算額	1,280,000	2,836,360
増・減 (△)	0	807,320

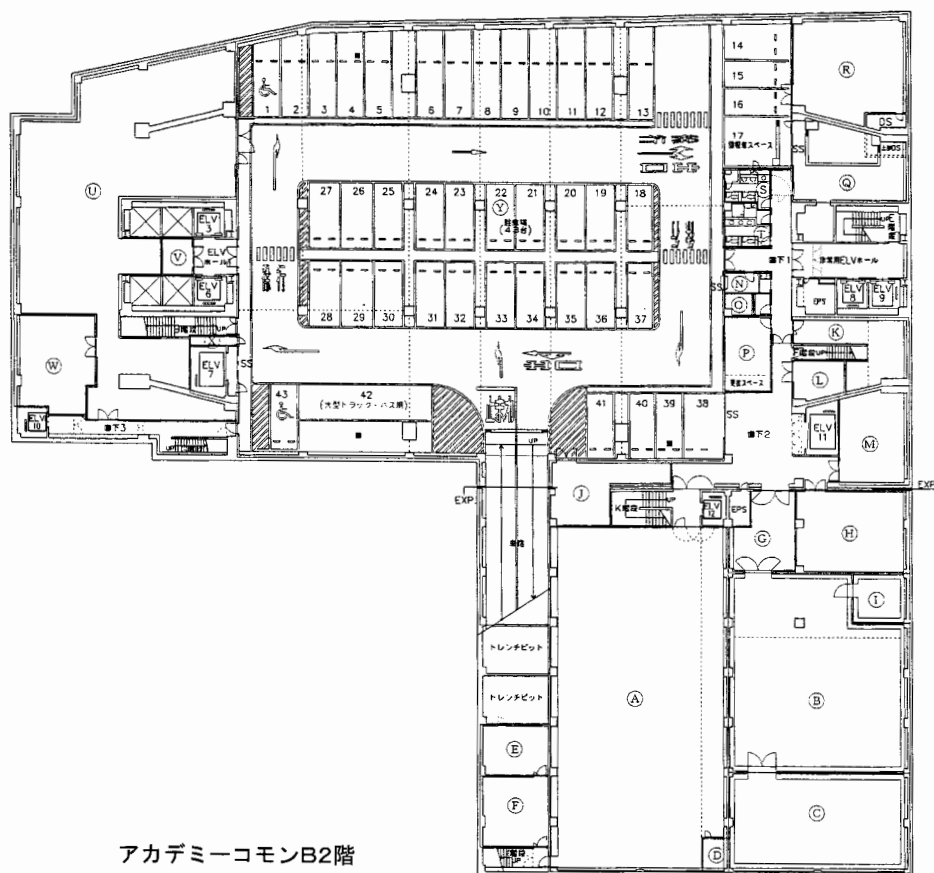
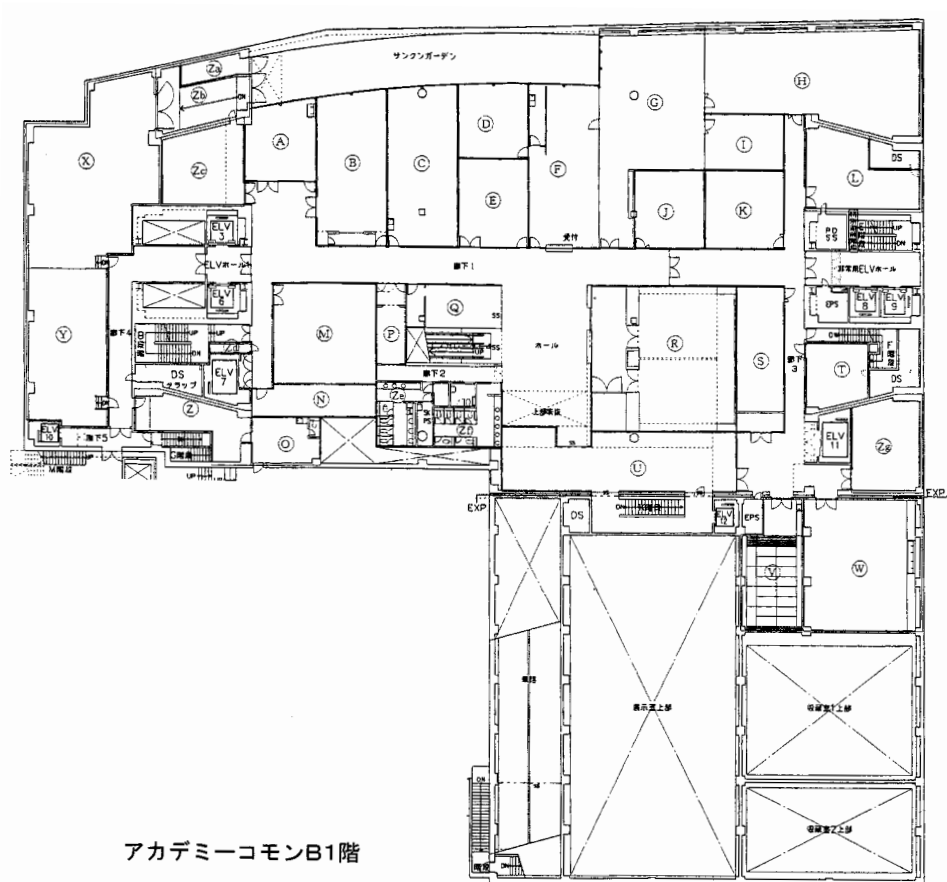
4 施設概要・見取り図

(1) 施設概要

(単位 m²)

		階	記号	面積	延べ面積
管理部門	館長室	B1	D	42.86m ²	243.90m ²
	事務室	B1	F	94.06m ²	
	会議室	B1	J	45.12m ²	
	倉庫	B1	L	61.86m ²	
教育普及部門	図書室	B1	G	145.04m ²	523.22m ²
	書庫	B1	H	176.03m ²	
	閲覧室	B1	I	35.95m ²	
	博物館教室	B1	B	87.94m ²	
	体験学習室	B1	A	44.31m ²	
	ミュージアムショップ	B1	Q	33.95m ²	
展示室	常設展示室	B2	A	497.19m ²	785.73m ²
	大学史展示室	B1	U	115.20m ²	
	特別展示室	B1	R	173.34m ²	
調査研究部門	学芸研究室	B1	C	92.03m ²	332.76m ²
	作業室 1	B1	V	60.80m ²	
	作業室 2	B1	W	129.70m ²	
	展示準備室	B1	K	50.23m ²	
収蔵部門	前室	B2	G	38.90m ²	649.11m ²
	一時保管室	B2	H	77.35m ²	
	収蔵室 1	B2	B	271.46m ²	
	収蔵室 2	B2	C	147.37m ²	
	特別収蔵室	B2	I	23.28m ²	
	写真保管室 1	B1	S	56.68m ²	
	写真保管室 2	B1	T	34.07m ²	
合 計					2,534.72m ²

(2) 施設見取り図



5 規程

明治大学博物館規程

1991 年 10 月 31 日制定
1991 年規程第 2 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、明治大学学則第 64 条第 2 項の規定に基づき、明治大学博物館（以下「博物館」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 博物館は、資料等の収集、整理、保存及び展示を行い、明治大学（以下「本大学」という。）の学生、教職員、校友並びに一般公衆の利用に供し、教育・研究に資するための事業を行うことを目的とする。

(事業)

第 3 条 博物館は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 考古、歴史、刑事及び商品に関する資料の収集、整理、保存、閲覧、貸借、交換及び展示
- (2) 前号に関する調査、研究及び開発
- (3) 資料の目録及び図録、資料集、年報、調査報告書、研究報告書等の作成、頒布及び公開
- (4) 資料に関する解説並びに講習会、研究会、講演会及び映写会等の実施
- (5) 寄託資料の整理、保存、閲覧及び展示
- (6) 学外の教育、学術又は文化に関する諸機関との連携・協力
- (7) 生涯教育の振興及び学習支援
- (8) 分館の設置及び運営
- (9) その他必要と認められる事業

(館長)

第 4 条 博物館に、館長 1 名を置く。

- 2 館長は、学長の命を受けて館務を総括し、博物館を代表する。
- 3 館長は、本大学専任教授の中から、学長の推薦により本大学が任命する。
- 4 館長の任期は、2 年とする。ただし、補欠の館長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 館長は、再任されることができる。
- 6 館長は、学部、大学院、付属学校又は付属機関の長を兼ねることができない。

(副館長)

第 5 条 博物館に、副館長 1 名を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、館長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 3 副館長は、館長が本大学専任教員の中から推薦し、学長の同意を得て、本大学が任命する。
- 4 副館長の任期は、2 年とする。ただし、補欠の副館長の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 副館長は、再任されることができる。

(事務及び職員)

第 6 条 博物館に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室で行う。

- 2 学術・社会連携部博物館事務室に、事務管理職 1 名並びに学芸員及び職員若干名を置く。
- 3 学芸員は、第 3 条に規定する博物館の事業についての専門的事項をつかさどる。

(研究調査員)

第 6 条の 2 博物館に、研究調査員若干名を置くことができる。

- 2 研究調査員は、本大学の教職員並びに学外の有識者及び若手研究者の中から、館長が次条に規定する明治大学博物館協議会の同意を得て委嘱する。
- 3 前項のほか、研究調査員に関し必要な事項は、別に定める。

(博物館協議会)

第 7 条 博物館の運営に関する事項について検討し、及び協議し、並びに館長の諮問に応じるため、博物館に明治大学博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

- 2 協議会は、本大学の専任教職員の中から、館長の意見を聴いて学長が委嘱する委員若干名をもって組織する。
- 3 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員は、再任されることができる。
- 5 協議会に、委員長及び副委員長各 1 名を置く。
- 6 委員長及び副委員長は、委員の互選により、これを定める。
- 7 委員長は、協議会を招集し、その議長となる。
- 8 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 9 協議会は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。
- 10 協議会には、必要に応じ、分科会を置くことができる。
- 11 分科会に関し必要な事項は、委員長が協議会の同意を得て、これを定める。

(規程の改廃)

第 8 条 この規程を改廃するときは、協議会の議を経なければならない。

(雑則)

第 9 条 この規程に定めるもののほか、博物館の管理・運営上必要な事項は、館長が協議会に諮り、学長の承認を得て別に定める。

附 則 (1991 年規程第 2 号)

(施行期日)

- 1 この規程は、1991 年（平成 3 年）10 月 31 日から施行する。
(明治大学刑事博物館規程等の廃止)
- 2 次に掲げる規程は、廃止する。
 - (1) 明治大学刑事博物館規程（昭和 56 年規程第 72 号）
 - (2) 明治大学商品陳列館規程（昭和 56 年規程第 73 号）
 - (3) 明治大学考古学博物館規程（昭和 56 年規程第 74 号）
(通達第 669 号)

附 則 (1996 年度規程第 16 号)

この規程は、1997 年 (平成 9 年) 4 月 1 日から施行する。
(通達第 893 号) (注 博物館協議会の設置に伴う改正)

附 則 (2001 年度規程第 14 号)

この規程は、2002 年 (平成 14 年) 4 月 1 日から施行する。
(通達第 1143 号) (注 商品陳列館を商品博物館に名称変更することに伴う当該条項の改正)

附 則 (2003 年度規程第 8 号)

(施行期日)

1 この規程は、2004 年 (平成 16 年) 4 月 1 日から施行する。

(改正前の規定による各博物館長の任期に関する特例)

2 改正前の明治大学博物館規程第 6 条第 1 項により選任された明治大学刑事博物館長、明治大学考古学博物館長及び明治大学商品博物館長の任期は、同規程第 8 条第 1 項の規定にかかわらず、2004 年 (平成 16 年) 3 月 31 日をもって満了するものとする。

(通達第 1232 号) (注 刑事博物館、考古学博物館及び商品博物館の統合に伴う改正)

附 則 (2006 年度規程第 13 号)

この規程は、2006 年 (平成 18 年) 11 月 16 日から施行する。

(通達第 1490 号) (注 事業に「分館の設置及び運営」を加えること、研究調査員の設置等に伴う改正)

附 則 (2007 年度規程第 21 号)

この規程は、2007 年 (平成 19 年) 9 月 10 日から施行する。

(通達第 1562 号) (注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正)

附 則 (2008 年度規程第 4 号)

この規程は、2008 年 (平成 20 年) 5 月 20 日から施行する。

(通達第 1689 号) (注 研究調査員の対象者に学外の有識者及び若手研究者を加えることに伴う改正)

附 則 (2009 年度規程第 7 号)

この規程は、2009 年 (平成 21 年) 6 月 10 日から施行し、改正後の規定は、同年 4 月 22 日から適用する。

(通達第 1807 号) (注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

博物館所蔵資料等の撮影及び掲載に関する要綱

1994 年 9 月 26 日制定

1994 年度例規第 7 号

(趣旨)

第 1 条 この要綱は、明治大学博物館規程 (1991 年規程第 2 号) 第 9 条の規定に基づき、博物館の資料、遺物及び商品 (以下「資料等」という。) の撮影及び掲載に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第 2 条 この要綱において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 撮影 資料等の写真、映画、テレビジョン若しくはビデオテープレコーダーによる撮影、模写又は複製を行うことをいう。
- (2) 影印 資料等を、写真印刷により復刻することをいう。
- (3) 熟覧 営利上の目的又は創造的意思をもって、資料等の形状、紋様若しくは色彩又はこれらの結合にかかわる利用を行うことをいう。

(申請)

第 3 条 資料等の撮影及び掲載 (以下「撮影・掲載」という。) を希望する者 (以下「申請者」という。) は、所定の資料撮影・掲載申請書 (以下「申請書」という。) を、学術・社会連携部博物館事務室を経て、博物館長 (以下「館長」という。) に提出し、許可を受けなければならない。

(許可)

第 4 条 館長は、撮影・掲載を許可する場合は、資料撮影・掲載許可書を、申請者に交付する。

2 前項の場合においては、必要に応じ、次に掲げる事項を付帯条件とするものとする。

- (1) 撮影をするときは、学芸員等の指示に従うこと。
- (2) 掲載をするときは、明治大学博物館の名称及びその所蔵である旨を明記すること。
- (3) 撮影により生じた著作物は、申請書記載の目的以外には使用しないこと。
- (4) 撮影は、館長が指定し、又は許可した業者が行うこと。
- (5) 前各号のほか、資料等の保全上、館長が特に必要と認めたこと。

(撮影・掲載を許可しない場合)

第 5 条 次の各号のいずれかに該当する場合は、撮影・掲載 (第 5 号に該当する場合にあっては、第 8 条に規定する掲載を除く。) を許可しない。

- (1) 撮影により資料等の保存に悪影響が生ずると認められる場合
- (2) 撮影・掲載が好ましくない用途に供するために行われると認められる場合
- (3) 撮影により博物館の事務処理に支障が生ずると認められる場合
- (4) 博物館の所蔵でなく、又はほかに著作権者がある資料について、所有者又は著作権者から、同意を得ていない場合
- (5) 撮影をすることなく、資料等の写真原版若しくは複製物、博物館所蔵の映画フィルム若しくはビデオテープ又は博物館の刊行物を利用して、目的を達成することができるものと明らかに認められる場合
- (6) 前各号のほか、撮影・掲載を許可することが適当でないと認められる場合

(料金)

第 6 条 申請者は、撮影・掲載を許可された場合は、別表

第1に定める料金を、速やかに、学術・社会連携部博物館事務室に納付しなければならない。

- 2 料金は、資料等を1点当たりの金額とする。
- 3 いったん納付された料金は、原則として、還付しない。
(料金の免除)

第7条 前条第1項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、料金を全額免除する。

- (1) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に関する事業（次号において「教育等事業」という。）の用途に供することを目的とするとき。
- (2) 教育等事業の普及に特に役立つと認められる用途に供することを目的とするとき。
- (3) 私立の学校又は研究所の教育若しくは研究の用途に供することを目的とするとき。
- (4) 博物館法（昭和26年法律第285号）に規定する博物館等の行う事業の用途に供することを目的とするとき。
- (5) 専ら学術研究の用途に供することを目的とするとき。
- (6) 専ら報道の用途に供することを目的とするとき。
- (7) 前各号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき。

2 前項の規定により料金を全額免除された者は、撮影・掲載により生じた著作物を、1部以上、無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が特に認めたときは、この限りでない。

(準用規定)

第8条 資料等の熟覧及び写真原版、ビデオテープ又は複製物の利用による掲載（以下「貸出掲載」という。）については、第3条から前条までの規定を準用する。

2 前項の場合において、第6条第1項中「別表第1に定める料金を」とあるのは、「熟覧にあっては別表第2に定める料金を、貸出掲載にあっては別表第3に定める料金を」と読み替えるものとする。

(その他の諸経費)

第9条 この要綱に定める料金のほか、撮影・掲載に伴う諸経費は、申請者の負担とする。

(意匠使用)

第10条 資料等の意匠使用に関し必要な事項については、館長が、その都度、関係部署の長及び申請者と協議して定めるものとする。

2 申請者は、前項の規定による決定事項を遵守しなければならない。

(申請者の責務等)

第11条 申請者は、資料等に損傷を与えた場合は、その損害を弁償しなければならない。

2 申請者は、撮影・掲載により著作権法にかかわる問題が生じた場合は、すべてその責任を負うものとする。

(許可の取消し等)

第12条 館長は、申請者が撮影・掲載の許可条件に従わない場合は、当該許可の取消し又は撮影・掲載の中止をすることができる。

2 前項の規定により、撮影・掲載の許可の取消し又は撮影・掲載の中止をされた申請者に対しては、以後の撮影・掲載を許可しないことがある。

(雑則)

第13条 この要綱に定めのない事項については、館長が博物館協議会に諮り、学長の承認を得て、別に定めることができる。

附 則 (1994年度例規第7号)

この要綱は、1994年(平成6年)9月27日から施行する。

附 則 (1997年度例規第7号)

この要綱は、1997年(平成9年)12月16日から施行し、改正後の第1条及び第13条の規定は、同年4月1日から適用する。

(通達第922号)(注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正)

附 則 (2004年度例規第7号)

この要綱は、2004年(平成16年)10月1日から施行する。

(通達第1312号)(注 博物館規程の改正に伴う根拠規定等の改正並びにフィルム及び紙焼の貸出掲載料金の改定に伴う改正)

附 則 (2007年度例規第9号)

この要綱は、2007年(平成19年)9月10日から施行する。

(通達第1563号)(注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正)

附 則 (2009年度例規第9号)

この要綱は、2009年(平成21年)6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

(通達第1808号)(注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

別表第1 (第6条関係) 撮影・掲載料金

1 一般

写真 映画 テレビジョン ビデオテープ レコーダー 模写	10,000
複製	20,000

(単位：円)

2 影印

影 印	頒布価格×(該当ページ数÷総ページ数)×0.05×出版部数の算式により算出された額。ただし、料金の最低限度額を10,000円とする。
-----	--

(単位：円)

別表第2 (第8条関係) 熟覧料金

熟覧	5,000
----	-------

(単位:円)

別表第3 (第8条関係) 貸出掲載料金

1 フィルム

サイズ	4×5 (インチ)	6×8 (cm) 6×6 (cm)	35mm
カラー	7,500	6,000	2,000
モノクローム	5,000	2,000	1,000

(単位:円)

2 紙焼

サイズ	キャビネ以上	キャビネ未満
カラー	2,000	1,000
モノクローム	2,000	1,000

(単位:円)

3 ビデオテープ

ビデオテープ	10,000
--------	--------

(単位:円)

明治大学博物館特別展示室の利用に関する
取扱要綱

2005年10月4日制定
2005年度例規第7号

(趣旨)

第1条 この要綱は、学校法人明治大学固定資産・物品管理規程(昭和46年規程第38号)第1条第3項の規定に基づき、明治大学博物館(以下「博物館」という。)内の特別展示室Ⅰ・Ⅱ(以下「特別展示室」という。)の利用等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(管理責任者)

第2条 特別展示室の管理責任者は、博物館長とする。

(利用範囲)

第3条 特別展示室は、博物館が実施する特別展等(以下「特別展等」という。)に利用するものとし、特別展等に利用しない期間については、次の各号のいずれかに該当する場合に利用を許可するものとする。

- (1) 学内関係機関による展示活動
- (2) クラス、ゼミナール等による授業にかかわる展示活動
- (3) 本学公認サークルによる展示活動
- (4) 本学の専任教職員が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (5) 本学の校友が第5条に規定する申請者となっている団体等による展示活動
- (6) その他特に管理責任者が許可した展示活動

(利用日及び利用時間)

第4条 特別展示室の利用を許可する日は、博物館の開館日とする。

- 2 利用時間は、午前10時から午後4時30分までとする。
- 3 利用期間は、原則として2週間を限度とする。ただし、前条第1号及び第2号に該当する場合は、この限りでない。

(利用申込み)

第5条 特別展示室の利用を希望する者は、所定の利用申請書を利用開始日の6週間前までに、管理責任者に提出しなければならない。

(利用許可)

第6条 管理責任者は、前条の規定により申請を受け、申請内容が適当であると認められたときは、利用開始日の3週間前までに利用を許可するものとする。ただし、次の各号のいずれかに該当すると認められる場合は、利用を許可しない。

- (1) 特別展示室の管理・運営に支障が生ずるおそれがある場合
- (2) 付属設備及び備品を破損するおそれがある場合
- (3) その他利用が不相当と認められる場合

2 前項により、管理責任者は、利用を許可したときは、利用許可書を申請者に交付する。

(利用の中止)

第7条 利用者の都合により利用を中止する場合は、利用開始日の2週間前までに管理責任者に申し出て、交付された利用許可書を返却しなければならない。

(利用の取消し等)

第8条 次の各号のいずれかに該当するときは、事前に、又は利用期間中において利用の取消し又は利用期間の変更をすることがある。

- (1) 本学の業務遂行上緊急やむを得ない事情が生じたとき。
- (2) 利用申請書に虚偽の記載があったとき。
- (3) 特別展示室の管理・運営に支障が生じたとき。
- (4) その他特別展示室の利用が不相当と管理責任者が認めたとき。

2 前項により、利用者に損害が生じても、本学は、その責を負わないものとする。

(遵守事項)

第9条 利用者は、特別展示室の利用に際し、管理責任者の指示を遵守しなければならない。

(利用料等)

第10条 利用者は、特別展示室の利用を許可されたときは、所定の方法により、2週間前までに利用料を納入しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、第3条第1号、第2号及び第3号に該当する場合は、特別展示室の利用料を徴収しない。

3 第3条第4号及び第5号に該当する場合の利用料は、1日につき2,700円(消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額)とする。

4 第3条第6号に該当する場合の利用料は、1日につき5,400円（消費税を含む。特別展示室Ⅰ及び特別展示室Ⅱともに同額）とする。

5 いったん納入された利用料は、第7条の規定による特別展示室に係る利用の中止又は第8条第1項第1号の規定による利用の取消しの場合を除き、これを返還しない。（権利の譲渡及び転貸の禁止）

第11条 利用者は、特別展示室の利用の権利を譲渡し、又は転貸をしてはならない。（損害賠償）

第12条 利用者は、特別展示室の利用に際し、その付属設備及び備品を破損し、紛失し、又は汚損したときは、直ちに主管部署に届け出て、その指示を受けなければならない。

2 前項の場合において生じた損害については、利用者が損害に相当する額を弁償しなければならない。ただし、やむを得ない事由があると認められるときは、これを減免することができる。

3 盗難、火災等により利用者が搬入した展示物等に損害が生じて、本学は、その責を負わないものとする。（主管部署）

第13条 特別展示室の利用に関する事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。（要綱の改廃）

第14条 この要綱を改廃するときは、博物館協議会の議を経なければならない。

附 則（2005年度例規第8号）

この要綱は、2005年（平成17年）10月5日から施行する。

（通達第1397号）

附 則（2007年度例規第9号）

この要綱は、2007年（平成19年）9月10日から施行する。

（通達第1563号）（注 事務機構改革の実施による部署名称等の変更に伴う改正）

附 則（2009年度例規第9号）

この要綱は、2009年（平成21年）6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

（通達第1808号）（注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正）

明治大学大久保忠和考古学振興基金規程

1995年5月8日制定

1995年度規程第2号

（設定）

第1条 明治大学（以下「本大学」という。）に、本大学文学部史学地理学科（考古学専攻）の卒業生である大久保忠和氏の遺志を生かすため遺族から寄せられた指定寄付金5,000万円をもって、明治大学大久保忠和考古学振

興基金（以下「基金」という。）を設定する。

（目的）

第2条 基金は、考古学及び明治大学博物館（以下「博物館」という。）にかかわる調査・研究（以下単に「調査・研究」という。）を奨励することにより、本大学における考古学の振興及び博物館の発展に寄与することを目的とする。

（資産）

第3条 基金は、次に掲げる資産をもってこれに充てる。

(1) 第1条の指定寄付金

(2) 基金の目的に賛同してなされた別記様式記載の指定寄付金

(3) 第7条の規定により基金の元本に繰り入れられた資産

（基金の運用等）

第4条 基金の資産は、資金の運用に関する規則（2009年度規則第20号）に基づいて運用する。

2 前項の規定により生じた果実は、基金の事業費に充てるものとする。

3 基金は、第6条に規定する基金運営委員会の議を経た上で、その一部を取り崩し、事業費に充てることができるものとする。

（事業）

第5条 基金による事業は、次のとおりとする。

(1) 調査・研究に対する助成

(2) 調査・研究によって得られた成果に対する顕彰

(3) 前2号のほか、第2条の目的達成に必要な事業

2 前項の事業を行うために必要な事項は、次条に規定する基金運営委員会の議を経て、別に定めることができる。

（基金運営委員会）

第6条 基金の運用等及び前条第1項の事業に関する事項を審議するため、基金運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 明治大学博物館長 1名

(2) 文学部史学地理学科考古学専攻主任（次号において「主任」という。）1名

(3) 文学部史学地理学科考古学専攻の専任教員のうちから主任が推薦する者 若干名

(4) 学術・社会連携部博物館事務長及び社会連携事務長 2名

(5) 考古学に関し高度の学識経験を有する者 若干名

3 前項第3号及び第5号の委員は、委員長が委嘱する。

4 委員の任期は、職務上委員となる者を除き、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 第2項第3号及び第5号の委員は、再任されることができる。

6 運営委員会に、委員長を置き、第2項第1号の委員をもって充てる。

7 委員長に事故あるときは、第2項第2号の委員が、その職務を代行する。

- 8 委員長は、会務を総理する。
- 9 委員長は、会議を招集し、その議長となる。
- 10 運営委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。
- 11 運営委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
- 12 運営委員会は、必要に応じ、遺族及び委員以外の者の会議への出席を求め、意見を徴することができる。
- (収支残額の処理)

第7条 毎年度の決算において基金の収支計算を行い、収支残額が生じた場合は、運営委員会の議を経て、これを基金の元本に繰り入れるものとする。

(事務)

第8条 基金の事務は、学術・社会連携部博物館事務室が行う。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、理事会が行う。

(雑則)

第10条 この規程の施行に必要な事項は、委員長が、運営委員会及び理事会の同意を得て、これを定める。

附 則 (1995年度規程第2号)

(施行期日)

1 この規程は、1995年(平成7年)5月9日から施行する。

(委員の任期の特例)

2 この規程の施行後、最初に任命される第6条第2項第3号及び第5号の委員の任期は、同条第4項本文の規定にかかわらず、1997年(平成9年)3月31日までとする。

(通達第806号)

附 則 (2003年度規程第35号)

この規程は、2004年(平成16年)4月1日から施行する。(通達第1282号)(注 考古学博物館が明治大学博物館として統合されることによる運営委員会に係る委員構成の変更に伴う改正)

附 則 (2007年度規程第40号)

この規程は、2007年(平成19年)11月8日から施行する。

(通達第1604号)(注 事務機構改革による基金運営委員会の委員構成及び事務部署名の変更に伴う改正)

附 則 (2009年度規程第7号)

この規程は、2009年(平成21年)6月10日から施行し、改正後の規定は、同年4月22日から適用する。

(通達第1807号)(注 事務機構第二次見直しによる部署名称等の変更に伴う改正)

附 則 (2010年度規程第6号)

この規程は、2010年(平成22年)5月26日から施行し、改正後の規定は、同年3月30日から適用する。

(通達第1911号)(注 資金の運用に関する規則の制定に伴う改正)

明治大学博物館友の会会則

1988年6月25日制定

1993年4月1日改定

2004年4月1日改定

2006年4月1日改定

2010年4月1日改定

2014年4月1日改定

(名称)

第1条 本会は、明治大学博物館友の会という。

(事務所)

第2条 本会は、事務所を東京都千代田区神田駿河台1-1明治大学(以下「大学」という)に所在する明治大学博物館(以下「博物館」という)内に置く。

(目的)

第3条 本会は、博物館設置の趣旨に賛同し、会員による自主運営を旨とし、会員相互の知識と親睦を深め合い、もって博物館の活動に寄与することを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条に掲げる目的を達成するため、次の事業を行う。

- ① 講演会・研修会・見学会などの開催
- ② 会報、ニュース、図書の発行
- ③ 会員による自主研究分科会活動
- ④ 博物館事業への協力活動
- ⑤ その他目的達成に必要と認められた事業

(入会)

第5条 本会に入会を希望する個人は、入会申込書に記入の上、所定の会費を添えて申し込まなければならない。なお、本会活動の趣旨に賛同後援する個人及び法人を賛助会員とする。

2 会員には会員証を発行する。

(会員の特典)

第6条 会員には、次の特典がある。

- ① 本会および博物館の行事などの情報提供
- ② 大学並びに博物館主催行事への優待参加
- ③ 大学図書館の閲覧

(退会)

第7条 会員の資格は、次の場合に消滅する。

- ① 退会の申し出があった場合
- ② 死亡した場合
- ③ 会員証記載の有効期限が過ぎた場合
- ④ 本会の趣旨に违背した行為があったと認められる場合

(役員)

第8条 本会に、次の役員を置く。

- | | |
|---------|------|
| ① 会 長 | 1名 |
| ② 副 会 長 | 2名以内 |
| ③ 理 事 | 5名以内 |
| ④ 運営委員 | 若干名 |
| ⑤ 監 事 | 2名以内 |

(役員を選出)

第9条 役員は、次のとおり選出するものとする。

- ① 会長および監事は、総会で選出する。
- ② 副会長および理事は、会長が任命する。
- ③ 総務・会計・行事・広報を担当する運営委員は理事会において選任し、会長が任命する。また、博物館図書室管理員・展示解説員からそれぞれ互選された運営委員を、会長が任命する。
- ④ 上記②、③について、会報で報告する。
- ⑤ 監事は、他の役員を兼務することが出来ない。

(役員の仕事)

第10条 役員は、次の職務を誠実に執行するものとする。

- ① 会長は、本会を代表し、会務を総理する。
- ② 副会長は、会長を補佐し、会長がその職務を遂行出来ないときは、その職務を代行する。
- ③ 理事は、本会の総務、会計、広報、行事などの会務を行う。
- ④ 運営委員は、理事と共に会務を行う。
- ⑤ 監事は、会の財産会計業務を監査し、総会に報告するとともに、理事会および運営委員会に出席し、その職務に関し、意見を述べる事が出来る。

(役員の仕事)

第11条 役員の仕事は、2年とする、ただし、役員の仕事の再任を妨げない。

2 補充の役員の仕事は、前任者の残任期間とする。

(相談役・顧問)

第12条 本会に、相談役および顧問を置く事が出来る。

2 相談役および顧問は、理事会の推薦により会長が委嘱する。

3 相談役および顧問は、本会への必要な助言を行う。

(総会)

第13条 本会は、年1回総会を開き、事業報告・会計報告を行い、事業計画・予算案を出席会員の過半数により議決する。

なお、理事会の議決、又は会員過半数の要求があった場合は、会長は臨時総会を開催しなければならない。

(理事会)

第14条 理事会は、会長、副会長、理事を以て構成し、会長が招集し、次の事項を審議・決定する。

- ① 総会に付議する重要な事項。
- ② その他、本会の運営に関する重要な事項。

なお、理事会構成員の過半数の要求があった場合、会長は理事会を開催しなければならない。

(運営委員会)

第15条 運営委員会は、会長・副会長・理事、運営委員を以て構成し、会長が招集し本会の業務運営を行う。

また、必要に応じて分科会代表者などを含めた拡大運営委員会を開催する。

なお、運営委員会構成員の過半数の要求があった場合、会長は運営委員会を開催しなければならない。

(会費)

第16条 本会の年会費は、次のとおりとする。ただし、そ

の年度の下半期入会者は、賛助会員を除き半額とする。なお、納められた年会費は返還しない。

- | | |
|-------------|-----------------|
| ① 一般会員 | 3,000 円 |
| ② 家族会員 | 1,500 円 (同居の家族) |
| ③ 学生会員 | 1,500 円 |
| ④ 賛助会員 (1口) | 10,000 円 |
- (経費)

第17条 本会の経費は、会費・事業収益・寄附金・その他をもって充てる。

(事業年度)

第18条 本会の事業年度は、4月1日より翌年3月31日までとする。

(会則の変更)

第19条 本会の会則は、総会の議決なくして変更することは出来ない。

(付則)

- 1 本会則は、改定年4月1日から発効する。
- 2 本会の管理運営上必要と認められる細則は、理事会において審議し、別に定める。

6 2014年度教育・研究に関する計画書

教育・研究に関する長期・中期計画書

博物館

1 理念・目的

新博物館開館から10ヶ年目を迎える。昨年度の来館者数は7万人を超え、一般社会における大学博物館の認知度も向上しつつある。1990年代後半以降顕著となった大学の社会開放に対する要請を背景とする生涯学習事業の活性化については一定の成果を達成したと評価できる。一方、新博物館の開館以降明らかになってきた課題として、40万点以上にのぼる収蔵資料のさらなる利用促進と在学生による博物館活用機会の増大がある。また、学長方針に謳われている「国際化」に対する施策もまた博物館にとって喫緊の課題である。

そこで、博物館は以下のようなミッションを掲げ、長期・中期計画策定方針の根拠としていきたい。

ミッション1：収蔵資料の管理と教育・研究機能の拡充

博物館が管理する国内有数の収蔵資料群を質・量ともに充実させ、調査・研究を進めるとともに、保存・管理及び学術情報公開の態勢を整備し、国際的な視野から教育・研究機会における利活用を促進する。

ミッション2：学内共同利用機関としての機能拡充 学部・大学院や研究・知財戦略機構と連携し、本大学の戦略的な教育・研究推進計画に寄与するとともに、博物館として特色ある教育・研究事業を実現する。

ミッション3：社会貢献・社会連携の拡充

博物館及び本大学における教育・研究の成果を社会に還元する生涯学習の多様な機会を提供するとともに、収蔵資料の原所在地自治体等との交流を通して本大学の社会連携推進に寄与する。

2 教育研究組織

(1) 研究・知財戦略機構との連携、研究活動への参画

刑事、商品、考古の3部門で構成される博物館の収蔵資料に関わる専門領域に関連して、研究・知財戦略機構の付属研究施設、研究クラスター、特定課題研究ユニットの活動への参画や連携、学部・大学院との連携強化により、教員や研究グループとの共同研究体制の構築に努める。

(2) 黒耀石研究センターへの支援

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択されたセンターの研究活動に対して引き続き支援の態勢を取

り、運営上の提携と事業の共同実施などの方策を推進する。

3 教職員・教職員組織

(1) 博物館協議会の改組

博物館における合議体である「博物館協議会」は、専任教員及び事務管理職によって構成されているが、旧3館時代、事務組織の統合にともなって各館の運営委員会を統合・再編したものである。その意味で、学内共同利用機関としての機能拡充において十分な態勢を取るに至らなかったことに鑑み、全学的な意思反映のネットワーク基点として機能しつつ、博物館活動の専門領域に対応し得る新たな組織を構想し、改組をおこなう。

(2) 学芸員の専門職的位置付け

本大学の博物館が他大学に対して優位性を保持する理由として、教員の兼担ではない専任の学芸員が配置されており、恒常的な館務への関与が可能な点と、専門的職務遂行要員として機能している点を指摘できる。この、当館にとってのコアコンピタンスを維持・保証するためには、学芸員を専門職として制度的に位置付ける措置が必要である。また、今後の国際的な展開を考慮するならば、相当の研究実績を有し、外国語にも堪能な専門の人材の配置が必須要件である。

(3) 学外からの研究者受入体制の整備

博物館の収蔵資料を研究テーマとし、長期的な取り組みを志す学外の研究者による資料の継続的利用に対応する体制を整備する必要がある。レファレンス対応をはじめ、客員研究員としての受入も視野に入れつつ体制の整備を策定・推進する。

4 教育内容・方法・成果

(1) 博物館主催特別展の開催

博物館の中核的事業として例年の政策的計画No.1と位置づけ、担当学芸員一人当たりの年間エフォートの大半を傾注している。特別展を担当する学芸員は、博物館や提携する研究機関の調査・研究の成果をもとに展覧会を企画し、実行委員会や有識者等、多方面からの意見をふまえて準備と運営を担う。

(2) 学内外の機関等と共同で開催する展覧会

これまで利用要請にもとづき様々な展覧会を受け入れ、開催準備に対する助言・協力等をおこなってきたが、“共同利用機能の拡充”という目的を考慮すると学内団体による利用をさらに活性化させる必要がある。特別展示室の利用を周知し、展覧会の誘致を促進する態勢を整える。

(3) 教育普及事業

一般社会人を主な対象とし、学芸員の専門的知識・

技能を活用した生涯学習プログラム・研究発表会等を実施する。また、在学生教育として、学芸員資格課程における館務実習生の受入、学部間共通総合講座や学部・大学院との連携による公開特別講義、その他収蔵資料を活用した特色ある講義を継続するとともに、ボランティアやサークル活動等を通じた博物館事業への参加機会を構想する。

5 博物館の国際化対応

(1) ICT ミュージアムの構築

博物館の収蔵資料は国内でも有数の学術資源群であり、その活用は国際的な広がりが見込まれる。また、発掘調査報告書や展覧会図録といった蔵書も、際立って特色的な存在である。これら資料情報の国際的な共有を図るため、特別展・常設展の動画コンテンツ制作や収蔵資料の画像データベース公開など電子媒体と多言語による情報発信体制の構築を策定・推進する。

(2) 国外からの研究者受入体制の整備

資料情報の発信とともに、国外の研究者による収蔵資料の利用受入体制を整備することも必要である。客員研究員の受入も視野に体制の整備を策定・推進する。

(3) 国際化対応の組織構築

学芸員は国外での研究発表や調査活動、外国事例の研究などの実績を有するが、その成果を拡張するには、現在の博物館の人員体制は全く不十分であり、速やかな改善が求められる。明治大学における国際的研究の進展を振興する一手段として博物館の活用を考える必要がある。

6 教育研究等環境

(1) 研究環境

ア 博物館事業に関連する調査・研究

特別展の準備をはじめ博物館におけるあらゆる専門的業務の遂行にあたっては、その技術的裏付けとなる調査・研究機会の確保が重要である。これらの調査・研究に際しては科学研究費補助金等外部資金の獲得に積極的に取り組む。

イ 博物館資料に関連する共同研究

現在進行中の「譜代大名内藤家文書」「伝統的工芸品の経営とマーケティング」「時田ことわざコレクション」「玉里舟塚古墳出土資料」「前場幸治瓦コレクション」に関する調査・研究は、研究クラスターや特定課題研究ユニット等と共同で行われている。また、必要に応じて専任教員及び学外の有識者に研究調査員を委嘱して共同研究を行う。政策的計画「内藤家文書研究の推進および旧領延岡市との交流事業」(研究推進は 2011 年度～ 2015 年度)を推進する。

ウ 大学院生・学生への学習機会の提供

“共同利用機能の拡充”では、院生・学部生への学習機会の提供も主眼となる。「イ」に掲げた各種

の調査研究・資料整理作業は、教員と学芸員の主導のもとに、院生・学生の協力を得ながら推進する。

(2) 施設・設備等

ア 博物館施設の見直しと改修

新博物館開館 12 周年 (2016 年 4 月) を目標に、常設展示内容について学術情報の点検とアップデートを行い、必要な展示造作を改修、ミュージアム・ショップのリニューアル計画を策定する。

イ 収蔵スペースの増床

アカデミーコモン地下 1、2 階にある収蔵室の収容能力はすでに限界に達している。今後の体系的な資料収集と整備に資するべく、500m²程度の収蔵施設(経費節減のため収納用棚は軽量棚及び中量棚とし集密棚は用いない)の増設を要望したい。また、今後の受贈資料の増加にともなう資料の専門領域の拡大によっては、対処する専門学芸員の増員についても検討する。

(3) 博物館資料及び図書・電子媒体等

ア 博物館資料の構築

刑事・考古・商品の 3 部門の専門領域について、特色ある博物館資料の充実を目指し、刑事部門では刑罰史関連資料、古文書、絵図・古地図類、考古部門では黒曜石研究、東アジア青銅器、化石人類の関連資料、商品部門では伝統的工芸品産業の関連資料を収集の基本方針とする。また、資料の寄贈の申し出に対応する。

イ 博物館資料の保存処置

博物館資料の活用の前提として、各種資料に必要な保管処置をし、必要に応じて修復を行うため、継続して予算を措置する。

ウ 博物館資料のレファレンス体制

教育・研究への博物館資料の利用促進にあたり十分なレファレンス体制の整備は中核的な課題である。譜代大名内藤家文書については史料目録の再刊などに努めてきたが、その他の収蔵資料についても順次資料検索等の態勢を整備する。

エ 個性的な蔵書構築

博物館 3 部門に関連する専門図書については今後も計画的に蔵書構築を行っていく。特に、全国各地の発掘調査機関から博物館と考古学専攻に寄贈される遺跡発掘調査報告書、全国各地の博物館・美術館が刊行した展覧会図録、収蔵資料に関連する参考文献の収蔵は当博物館の存在を際立たせている。約 10 万冊の図書は図書館に資産登録され、書誌情報は OPAC に統合されているが、レファレンス環境の整備及び蔵書点検を図書館と連携して推進する。

7 社会連携・社会貢献

文科省の補助事業や大学基準協会による大学評価においても注目されるようになってきた社会連携事業につい

て、社会連携機構、リバティアカデミー、図書館と連携して充実化を図る。

(1) 教育研究成果の社会還元及び情報発信の強化

ア 年間7万人を超える大学博物館トップクラスの入場者を数える博物館の特別展示室において、本大学における教育研究成果を広くアピールする。

イ 研究資源としてばかりではなく、大学教育への興味関心の喚起という観点から、教養・娯楽を含めて社会における幅広い収蔵資料利用を促進する。

ウ 新聞・テレビなど報道機関に対し、タイムリーな情報提供をおこないパブリシティ効果を高める。全学的な教育研究成果の社会発信を図るしくみを博物館として策定する。

(2) 地域連携・大学間連携事業の推進

ア 本大学との間に社会連携事業推進協定を締結している長野県長和町をはじめ、長野県や周辺市町村、教育委員会、埋蔵文化財センター、博物館、学会と連携し、「信州黒曜石研究フォーラム」の開催などを通して黒曜石原産地と石器時代遺跡の保存・活用に関する行政的コンセンサス形成を支援する。

イ 考古学・文化人類学の分野で高い評価を得ている南山大学人類学博物館と交流協定を結び、第2期(2013年度～2015年度)の事業計画を推進する。

ウ これまでに地域連携の実績がある宮崎県延岡市、福島県いわき市、長和町、千代田区などとの間で地域連携を推進する。

エ 学外の教育・研究機関が主催する市民講座等へも積極的に出講し、本大学と博物館の研究成果を社会に還元し、地域連携の推進に努める。

(3) 博物館友の会活動の支援

博物館友の会は市民参画による一般社会との接点として機能しており、その活動の支援は博物館にとって極めて重要である。会員による自律的な運営体制をとっている博物館友の会には、ボランティア参画により展覧会や図書室の運営、資料整理等を支援していただいており、博物館の対外的な評価形成に果たす同会の貢献は大きい。同会と博物館は共存共栄の関係にあり、博物館としてもその活動を積極的に支援していく。

8 管理運営・財務

(1) 事務組織

博物館運営の基幹人材である学芸員については、関係学問分野における専門的知識と技能を要する専門職として制度的に位置付けられるよう要請してゆく。現在、一般事務職員の配置がないことが学芸員による専門的職務遂行を妨げており、世界的なレベルを目指し博物館を発展させる態勢には程遠い。博物館の発展に向けて適切な事務組織を構築するために専任事務職員の配置を関係部署に要求する。

(2) 適切な財産管理手段の構築

収蔵資料の収集プロセスは第2次大戦前に遡り、その間には度重なる組織改編や所在地移転があり、資産登録に関する勘定科目についても一定ではなかったため管理上の混乱が見られる。引き続き収蔵資料の所在確認を進め、資産登録手順や棚卸し等の管理手段について関係各部署と協議の上、適切な財産管理体制を構築する。

9 内部質保証

(1) 自己点検・評価

博物館自己点検・評価委員会による点検・評価作業を中心に、教員・事務管理職によって構成される博物館協議会からの意見聴取をはじめ、それ以外の教職員や学外の有識者から幅広く事業に対する意見を募るなど、点検・評価・改善の方法を制度化したい。また、各種アンケート調査や博物館友の会会員との対話をとおして、積極的に利用者の意見を聴取し、博物館運営と事業の改善に資する。

(2) 情報公開

ア 博物館資料等に関する学術情報の公開

『博物館研究報告』は、投稿規程と査読制度を整備し年次刊行している。また、各種資料整理の成果を図録、目録、報告書等として刊行する。

イ 事業報告と広報活動

事業内容、研究実績、収蔵資料利用数・入館者動向等の各種統計、予算・決算、各種委員会、規程類、施設概要等については、『博物館年報』の年次刊行により公開している。広報誌「ミュージアム・アイズ」(年2回発行)やミュージアム・ショップ並びに他の博物館・学会等とのネットワークを活用し、事業内容と活動の広報に努める。またホームページの更新とタイムリーな情報提供に努める。

2014 年度：政策的計画の経費等一覧				部署：博物館事務室			
順位	計画課題（名称）	計画の成果・効果	必要経費（単位：万円）				
			今後3 年間総 額	14年 度	15年 度	16年 度	以降 経常化
1	特別展「江戸と国元～いわき平、延岡、江戸、時を越える内藤家文書」	譜代大名内藤家文書が明治大学に譲渡されて51年目、目録刊行49年目を記念して内藤家文書の展覧会を行う。講演会の開催、図録の刊行などの関連事業も展開し、およそ5000人の入場者を見込む事ができる。これにより、本学の豊かな研究資源を広く社会にアピールする事ができる。	900	900			
2	明治大学博物館・南山大学人類学博物館交流事業	2013年度から始まった第2期3ヶ年計画の2ヶ年目は、初年度に引き続き相互の特色ある収蔵資料を交換展示し、それをテーマに講演会や実習をおこなう。在学生教育・生涯教育の双方において、本大学にはない新規分野に関する学習機会の提供が実現するとともに、本大学の研究成果・研究資源について名古屋方面へアピールする機会となる。	675	110	565		
3	内藤家文書研究の推進及び旧領延岡市との交流事業	5ヶ年計画の4・5ヶ年目は研究環境の整備を引き続きおこなう。重要史料の抽出調査実施により、その成果を博物館広報誌や『博物館研究報告』、企画展などで発表する事ができる。この様な情報発信によって史料利用の利便性を向上させ、研究活動の活性化に資することができる。	200	100	100		
4	大船渡市震災復興支援事業(博物館)	本大学と大船渡市が締結した震災復興に関する協定に基づき、大船渡市立博物館における明大コレクション展覧会及び市民講座を開催する。当館の特色あるコレクションを現地で公開し、大船渡市立博物館の利用活性化を支援する。また、本大学から講師を派遣し、市民講座を開催することで本大学の教育研究成果を社会還元できる。	400	400			

※本表は2013年度における計画作成・提出時の記録で、2014年度に予算として措置されたものとは金額が異なる場合がある。

7 明治大学博物館のあゆみ

- 1881（明治14）年 1月明治法律学校開校
- × ×
- 1929（昭和4）年 4月刑事博物館を記念館5階に開設（初代館長大谷美隆法学部教授1933年就任）
- 1931（昭和6）年 大学創立50周年記念刑事展覧会開催
（第2次世界大戦）
- 1949（昭和24）年 新制大学へ移行
- 1951（昭和26）年 4月刑事博物館の運営を再開 2代館長に島田正郎法学部教授（後、明治大学総長）
林久吉商学部教授（初代商品陳列館長）らの商品研究所が資料室を開設
- 1952（昭和27）年 考古学陳列館が2号館4階に開館（初代館長後藤守一文学部教授）
- 1954（昭和29）年 4月刑事博物館が2号館4階へ移転 6月に一般公開開始
- 1955（昭和30）年 2月刑事博物館が博物館相当施設に指定される（2004年3月廃館にともない指定解除）
- 1957（昭和32）年 5月商品陳列館が2号館4階に開館
（この頃には3館とも一般公開 3館共通の入館案内を作成）
- 1960（昭和35）年 考古学陳列館長に杉原荘介文学部教授就任
- 1966（昭和41）年 4月小川町校舎に移転（考古2階・刑事3階・商品4階）
商品陳列館長に三谷茂商学部教授就任
（大学紛争）
- 1976（昭和51）年 4月刑事博物館長に鍋田一法学部教授就任
- 1977（昭和52）年 4月商品陳列館が一般公開再開 同館「講演と映画の会」開催（年1回～2003年）
- 1981（昭和56）年 1号館（刑事1階・考古3階）、11号館（商品4階）へ仮移転 商品陳列館長に刀根武晴商学部教授就任
- 1983（昭和58）年 9月考古学陳列館長に大塚初重文学部教授就任
- 1985（昭和60）年 11月3館大学会館へ移転（刑事・商品3階・考古4階）
その際、考古学博物館に名称変更
- 1987（昭和62）年 5月考古学ゼミナール開講
- 1988（昭和63）年 6月考古学博物館友の会結成
- 1991（平成3）年 4月博物館の事務所管部署一元化のため博物館事務室設置
10月「明治大学博物館規程」制定
- 1995（平成7）年 4月考古学博物館長に戸沢充則文学部教授就任 刑事博物館長に川端博法学部教授就任
10月博物館入門講座を開講
- 1996（平成8）年 4月考古学博物館長に小林三郎文学部教授就任
- 1997（平成9）年 4月刑事博物館にて「ヨーロッパ拷問展」開催（～12月）
- 2001（平成13）年 4月刑事博物館が文部科学省「親しむ博物館づくり事業」受託
- 2002（平成14）年 4月商品博物館に名称変更 商品博物館長に澤内隆志商学部教授就任
- 2004（平成16）年 4月「明治大学博物館」アカデミーコモン地階に開館
「明治大学博物館規程」改正施行（刑事博物館・商品博物館・考古学博物館を統合）

- 国外から資料を借用しての特別展「韓国スヤング遺跡と日本の旧石器時代」開催（～5月）
博物館長に小疇尚文学部教授就任
- 2006（平成18）年 **10月** 文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託（～2005年3月）
4月 博物館長に杉原重夫文学部教授就任
- 8月** 文部科学省委託事業「地域子ども教室」受託（～2007年3月）
10月 特別展「掘り出された子どもの歴史」にて国指定重要文化財を借用・展示
11月 明治大学黒耀石研究センターが博物館分館となる（～2010年3月）
- 2007（平成19）年 **10月** 事務所管部署が学術・社会連携部社会連携事務室となる
- 2009（平成21）年 **4月** 事務所管部署が学術・社会連携部博物館事務室となる
巡回特別展「海のシルクロードの出発点“福建”」開催 中国国家一級文物を展示（～5月）
- 2010（平成22）年 **3月** 南山大学人類学博物館と交流協定締結
- 2012（平成24）年 **4月** 博物館長に風間信隆商学部教授就任
- 2013（平成25）年 **2月** ギロチンとニュルンベルグの鉄の処女が名古屋へ 南山大学人類学博物館・名古屋市博物館との合同特別展「驚きの博物館コレクション展」（～3月）
3月 南山大学人類学博物館との合同シンポジウム成果刊行物『博物館資料の再生—自明性への問いとコレクションの文化資源化—』を岩田書院から刊行
7月 岩宿遺跡出土石器（重文・29点）他記録類をはじめて海外へ出展（～9月） 韓国公州市石壮里博物館・群馬県岩宿博物館と共催で「日本旧石器の始まり“岩宿”」展を開催（～2014年2月）

編集後記

刑事博物館・商品博物館・考古学博物館が統合され、新たに明治大学博物館が発足してからこの4月で10年が経ちました。開館から数年と今日とを較べるとやはり今昔の感をまぬかれませんが、あらためて感じるのは、それ以前の3館時代との劇的な変化です。新博物館開館直後は開館にこぎ着けるのに精一杯でその後の道筋を考案する余裕もなく、施設・設備面での飛躍的な充実という最大のメリットと、学内共同利用機関としての目玉であった特別展示室を今ひとつ有効に利用できていなかったきらいもありますが、新博物館開館後に着任したスタッフの旧慣にとらわれない姿勢がさまざまな変化をもたらしたことも実感します。特別展示室が有効に回転し始めたのは2006年からと言えますが、この間、美術品専用輸送車を仕立てての特別展開催や国指定重要文化財の借用・公開といった実績を積み重ね、旧3館時代には実現し得なかった事業が毎年続きました。

しかし、こうした事業は一定規模の博物館・美術館ではあたり前におこなわれていることであり、ようやく大学博物館が追い付いてきたという見方もできます。厳しい言い方をすれば、主に施設面の制約に起因していたことではありますが、こと展示活動に関してはそれまで“博物館らしき”状態にあったものが、ようやく真っ当なレベルに達したということになります。しかし、大学博物館のアドバンテージは、その豊富な学術資源と研究者の集積にあるはずで、当館の30万点を超える収蔵資料には、新たな学術的成果を生み出す可能性が無限にあると言ってもよく、この方面こそが今後取り組むべき重点領域であると思います。学術情報の公開と研究利用の活性化という点で、現在掲げられているICTミュージアム構想は有望な方策であり、研究成果の社会還元という機能をも併せ持ちます。次の10年のイメージがだんだんと明らかになりつつあります。

(編集子)

明治大学博物館年報 2013年度

2014年6月16日 発行

編集
発行人 明治大学学術・社会連携部博物館事務室

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

電話 03-3296-4448

FAX 03-3296-4365

URL <http://www.meiji.ac.jp/museum/>

印刷 株式会社日本制作センター

東京都東村山市恩多町1-11-5
